

## 第4章 調査のまとめ

### 1. 尊い中学生の意見から「静岡発 福祉文化の創造」を検証

本会は、1996年9月結成以来、28年間「啓発学習事業」「実践活動地区事業」「調査研究事業」の「3つの柱立て」により、活動を展開してきた。中でも、「調査研究事業」は、「静岡発（地方発）福祉文化の創造」を目指し、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」とし、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

大半が、大人対象に27年間、下記のように取り組んできた。

- 1997年度 1. 「共働きに関する調査」
- 1998年度 2. 「私たちにとって、地域とは何かーその1ー意識と実態調査」
- 1999年度 3. 「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 2000年度 4. 「父親に関する調査」
- 2001年度 5. 「ボランティア活動実践者意識調査」
- 2002年度 6. 「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 2003年度 7. 「青少年の生きがいに関する調査」
- 2004年度 8. 「地域とは何かーその2ー意識と実態調査」
- 2005年度 9. 「子どもと社会環境に関する調査」（継続調査）
- 2006年度 10. 「子どもと社会環境に関する調査」（総括）
- 2007年度 11. 「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 2008年度 12. 「長寿者の生きがい その意識と実態に関する調査」（静岡県共同募金会助成事業）
- 13. 「日常生活と福祉情報に関する意識調査」（静岡県委託事業）
- 2009年度 14. 「長寿社会に関する県民意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 2010年度 15. 「いまこそ 地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとは何か本音に迫る調査」（静岡県委託事業）
- 2011年度 16. 「地域と私の居場所その意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 2012年度 17. 「家族ってなにその意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 2013年度 18. 「長寿者とつながるホッとするご近所づくりその意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 2014年度 19. 「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 2015年度 20. 「若者の地域参加その意識と実態調査」（20歳以上対象）
- 2016年度 21. 「ご近所福祉 その意識と実態調査」
- 2017年度 22. 「居場所ってなに その意識と実態調査」
- 2018年度 23. 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」（単純集計）
- 2019年度 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」（静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言）
- 24. 「256名の子どもたちに聞きました。ホッとする地域ですか?」（小学生対象）（静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言）
- 2020年度 25. 「ご近所福祉 その意識と実態調査」（本会結成25周年記念調査研究事業）
- 2021年度 26. 「福祉ってなに? 461名の子どもたちに聞きました」（小学4～6年生対象）（公益財団法人さわやか福祉財団、公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業）
- 2022年度 27. 「ホッとする、安心した地域づくり その意識と実態調査」（65歳以上対象）（公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業）

と、「27のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。

28年目の今年度(2023年度)は、これまでの調査事業は、「大人」「高齢者」「児童(小学生)」をそれぞれ対象に取り組んできた。長引く厳しいコロナ禍下、地域コミュニティの希薄化、家庭・家族機能やご近所福祉(支え合い)の弱体化が危惧されている。しかし、一方では、制度や公助

による意図的支援が当たり前の社会環境にもある中で、ようやく、地域社会に明るい兆しが見えてきたこの時期に、とかく、地域活動から疎遠となりがちな中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加を呼びかけ、世代間交流の活性化を通じて地域づくりの再構築について検証する目的で、本会としては、初めての試みとして、中学生対象に、「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」に取り組むことが出来た。

これまで、取り組んできた「大人対象」「児童(小学生)対象」の調査の設問項目を意図的に組み入れて、大人社会に向けて成長する「中学生」が、現実の社会をどのように受け止めているかをこのたびの調査活動により、比較考察することが出来た。

## 2. プロセス重視の「調査研究活動」検証の意義

本会結成以来28年間、「静岡発 福祉文化の創造」を基に、その年度における地域課題を基に活動を展開してきた。今回は、これまで調査対象にしてこなかった「中学生」から、地域社会、とりわけ、大人社会に向けた「提言」として、これまでのプロセスを重視してまとめることが出来た意義は大きい。

## 3. 長引くコロナ禍下に加えて、猛暑の中、地域社会に熱い思いをよせる地域活動実践者、福祉施設、市町社協等の協力(協働)の成果

本会の28年間の福祉文化実践地域活動の展開を通じて、「協働」の重要性を認識してきた。

今回の中学生対象の調査研究事業は、これまで以上に、活動の展開の厳しさ・難しさを予測していた。本会会員のみで、活動テーマに基づく福祉文化実践活動をしたとしても、所詮、地域に広がることなく自己満足でしかない。対象を中学生とした今年度の調査研究事業を、いかに、関係団体・福祉施設等に働きかけ、協力を求めることが出来るか、更には、本会のような小さな志縁組織の活動目的を理解していただき、活動を共有し、地域全体の取り組みとしていくか、予想もつかない、大きな課題を持ちながらの出発点であった。

調査の当面の目標を、300名の中学生から尊い意見をいただけるように、これまで、本会の事業に協力いただいた、地域活動実践者、市町社会福祉協議会に、調査の意義を、これまで以上に具体的に表記してお願いした。

これまで27年間、調査活動では、協力をお願いしてこなかった福祉施設に、今回初めて調査の協力をお願いした。協力いただいた皆様から、調査票とともに、調査活動に関わっていただいた貴重なご意見が寄せられたので、本調査報告書の「第3章 調査結果」の「7. 厳しい社会環境の中で、調査に協力いただいた方々からの声」として、ご紹介させていただいた。

これまで、市民の立場の活動として、「市民性と専門性」「理論と実践」の『融合』を提唱している本会としては、各方面からの多大なご理解とご協力により、尊い、意義ある調査研究活動として考察出来たこと、また、協力いただいた皆様と、市民の意識改革、学校領域への働きかけ、コミュニティ組織と志縁組織、関係団体等とのあり方等の課題を共有できたことをこれからの福祉文化実践活動に、活かせるようさらに努力していきたい。

## 4. いかに、「教育と福祉の融合」が出来るかの実践展開

「生活圏域における小地域の機能」として、

### ①問題解決の機能

- ・地域住民が知恵を出し合い、また地域にある資源を有効に活用し、小地域の中で問題を解決する力(機能)

### ②福祉教育の機能

- ・身近な地域で、生活を語り継ぎながら、思いやり・支え合いの心を育む力(機能)

### ③お互い様の支え合いの機能

- ・地域におけるそれぞれの家庭・家族の信頼関係のもとで、支え合いの慣習を維持しあう力（機能）
- ④専門性と市民性を融合する機能
  - ・全てを地域で問題を完結する地域活動から、専門的領域の人材・機関を巻き込んでいきながら、つなぐ・協働・調整の力（機能）
- ⑤広く、地域に発信する機能
  - ・地域ぐるみで取り組まれた、地域実践活動を、常に、地域発で、広く社会に発信していくことにより、「共生社会」を構築する力（機能）

こうした、5つの機能を有している小地域が、何かと行政や専門領域、学校領域に丸投げしてしまうことなく、現状の地域社会の中で、どの程度、中学生を理解しているか、今回の試みは、決して、学校教育や、中学生の現状を議論するのではなく、地域社会とりわけ、大人社会は、これからの地域づくりに、地域の問題解決に向けて、中学生からの尊い意見を、どのように活かせるかを問い質す試みでもあった。

こうして、調査結果を考察することが出来た時点で、今後、関連事業に、大いに活かしていただくように呼びかけていきたい。

地域の福祉課題を学習する仕組みづくりは、今や「地域福祉教育の推進」として、各方面にその必要性を発信しているが、地域社会自体が抱えている諸問題を、単に、学校教育に委ねることから、日常生活の中で、まずは、一人ひとり、そして、身近な家庭環境（身内福祉・足元福祉）に、常に関心を持ちながら、ご近所同士の支え合い（ご近所福祉）へとつなぎ、「地域を家庭化する。」ことを呼びかけていきたい。

## 5. 語り合える地域環境をいかに創るか

本会結成以来、「語れる環境なくして、問題解決の第一歩はない。」を強調してきた。

地域から孤立・孤独化している地域住民への問題解決への関わりの第一歩は、これまでの福祉文化実践活動の検証から明らかになっていることは、「さりげない見守り・声掛け」「平日頃からの、ご近所同士の会話・挨拶」が大きく上げられている。

今回の中学生対象調査「私にとって“ご近所”とは その意識と実態調査」では、これまで取り組んできた、児童・高齢者・大人対象のそれぞれの調査検証から、明らかになった「普段の生活の中での、ご近所の声掛け」が、いかに、地域課題解決の第一歩か、明かにしている。

今回は、過去の一連の検証を更に確認する上で、これまでの調査に関連した設問項目を加えて回答を求めた。そして、家庭・地域環境も含めて「語れる環境」が大きく浮かび上がった。

## 6. 調査の基本属性から「均等性」を検証

今回の調査は、これまでの調査研究活動を継承する中で、地域性を踏まえて考察につなげた。

- (1) 男女別回答結果は、大人社会における福祉活動等への関心度合いは、女性6割、男性4割の中で、今回の調査回答は、男性46%、女性54%の回答結果であった。これから地域づくりの理想的割合であり、男性の意見も十分考察につなげられる回答であった。
- (2) 学年別回答結果は、1年生34%、2年生36%、3年生30%であった。  
大人社会との比較で表現すれば、若い世代ほど、地域には関心が薄い傾向が伺えるが、今回の学年別では、ほぼ全体的には、バランスのとれた回答であった。
- (3) 家族構成別の回答結果から、ご近所をどのように認識しているか、祖父母の存在はどうか、といった側面を考察することを目的に設問した。  
また、もう一面として、今日「核家族化」の時代とも言われている中で、家族構成状況は、祖父母と一緒に暮らしている回答が27%あり、都市型家族構成の地域環境ではあるが、安定している傾向であることがわかった。
- (4) 兄弟姉妹別の回答結果から、兄弟姉妹の状況と家族機能を認識できた。

## 7.35 1名の中学生から、大人社会へ15の提言

- (1) 文化・芸術・スポーツ等、多彩な趣味・特技を持つ中学生が多いことがわかった。  
そして、こうした自分の持ち味(趣味・特技)を地域活動の場で活かしてみたい、機会があれば、参加したい意向を53%持っている。大人社会に向かって成長する、中学生の自己表現が出来る身近な地域環境づくりに向けて、地域参加の糸口(きっかけ)をつくる機会を、常に、コミュニティ組織運営において心掛けたい。
- (2) いまの生活環境に満足をしている中学生(86%)であり、ホッとする居場所(家庭・自分の部屋)も心得ている。成長とともに、家庭・家族環境の次に、友人、友人のいる場所の回答が多くみられる。  
そして、家族とも楽しく生活している環境だと回答のある中で、悩みごとを8割の中学生は持っている回答(学校の勉強のこと、将来のこと、進学のこと)から、家庭環境においては、日頃から、語れる環境に努めていくことが求められている。
- (3) 大人への成長過程で、抱えている悩みを相談できる相手は、家族から友人へと大きく変化をしている。その中でも、父親の存在が見え隠れしている傾向が伺える。  
「語れる環境」づくりは、まずは家庭・家族からを心掛けていきたい。特に、男性の社会性や、コミュニケーション力日頃の家庭・家族生活の中で心掛けたい。
- (4) 友人に相談する、友人という場所が居場所である回答からも、今の中学生は、友人関係は幅が広く、お互いに話せる環境を維持していると受け止められる。  
こうした「語れる環境」を大人社会は、歩み寄りの中で、中学生が、地域社会を見る目を養うことが出来る側面的工夫が求められる。
- (5) 社会の大きな変化の中で、今や、大人社会は、共働き社会となっている。  
こうした、大人社会を取り巻く家庭環境にあって、「家事労働(手伝い)」の位置づけは、小学生と比較すれば減少はしているものの、その役割分担は、意識している回答である。これまで、家庭機能は、「産み育てる環境」「保護的機能」「福祉的機能」「教育的機能」「経済的機能」「情緒安定機能」の6つの柱立てがあるといわれている。今後、こうした機能は大きく変化することが予測される中で、家事労働の位置づけは、日常生活の中で、自然に位置づけられ、社会性や連帯性を育む家庭環境を維持したい。
- (6) コミュニティ組織運営の認識や理解は、今日、大人社会の大きな課題になっている。  
地域社会の、身近な地縁組織の所属意識を中学生に求めても、「知らない」回答が大半(73%)である。  
日頃から、近隣社会の共助のあり方について、大人社会から、まず、意識を高め、中学生を地域社会につなげる工夫をしていきたい。
- (7) 誰もが、安心して暮らせる地域であると回答した中学生が約7割、まだまだお互いに努力をしていく必要の回答が3割ある。  
こうした回答を踏まえて、中学生が心掛けていることの一つに、自分から進んであいさつをする回答が約3割ある。  
難しい取り組みではない、普段の生活の中で取り組める行動でもある。  
他人のために、出来ることはやるという意思表示の回答が約7割あることを踏まえて、大人社会は、中学生に、積極的に地域とつながりが出来るように、その出番を提供していく工夫をしていきたい。
- (8) 時間的制約のある中学生は、それでも5割は、地域の行事等に参加をしている回答である。  
参加していない中学生からは、時間が無い回答は多いものの、参加のきっかけがない、情報が届いていない、参加の仲間がいれば参加すると、自分に合った、楽しい行事を期待する回答に、中学生の地域参加の期待もできる。  
地域行事等への参加の動向は、出来る限り参加したい81%の回答結果から、中学生の持ち味が発揮でき、大人社会だけの企画運営から、中学生等、若年層の意見を積極的に取り

入れてほしいと要望する意見を組み入れた場合に、地域社会への関心は、さらに高まり、それぞれの領域の負担が軽減され、地域の活性化に一步前進する予測もできる。  
こうした提案を実現していく上で、「トータルコーディネート機能」を、誰が担うかの課題がある。

- (9) 住みよい地域であるとの回答が91%あった。大人社会にとっては、大いに救われる回答結果である。福祉視点からは、「ご近所づきあいが良い」の回答も多い。  
引き続き、大人社会が、住みよい地域に向けて、大いに努力していく領域でもある。
- (10) 今や、情報の多様化、複雑化等が進んでいる中で、中学生は、身近な地域の情報入手は、「家族」が一番多い回答であった。この意味から、まず、大人社会が、積極的に地域に関わり、地域の動きを知り、常に地域の情報を細かく、わかりやすく、中学生に、日頃の家庭生活の中で話す環境をつくることが求められている。  
IT時代の中で、意外と、中学生は、小学生よりも「回覧板」からの情報入手を心得ている。  
身近な地域社会では、これまで長い間、今日まで、回覧板の機能を維持している。  
回覧板の必要性の有無が今日、コミュニティ組織の中で議論されている中で、改めて、いかにして、継続的に有効活用できるかの課題は大きい。
- (11) 中学生は、地域に貢献したい思いを持っている。  
この思いは、女性は男性よりも積極的な面が伺える。  
男性も、積極的に、地域の課題を理解する努力をしながらも、大人社会は、常に、地域の現状を中学生に「見える化」「わかる化」し、共通理解に努めたい。
- (12) 身近な地域社会の中で、ほとんどの中学生は、日常的なふれあい交流や実体験の機会をしていない回答が85%あった。  
しかし、体験があったと回答した中学生15%の内容は、「身内福祉:家族に障害者がいる、親戚の障害者の方と交流」「ご近所福祉:地区のふれあいサロンで地域の高齢者と交流した、ご近所の付き合いを心掛けている」の範囲内の自然的な内容を回答している。  
まだまだ「福祉」を構えた受け止め方で、難しいと感じる地域環境でもあるようにも伺える。こうした面から、一人一人が意識改革をし、誰もが、関われる福祉観を働きかけていく地域づくりを心掛けたい。
- (13) 中学生から、身近な地域社会で、誰もが安心していく上で、必要な支援やサービスの回答は、「見守り・声掛け(安否確認)」「災害時の手伝い」「簡単な介助・介護」「買い物支援」「話し相手」「移動支援」「ゴミ出し」「定期的なふれあいサロン」「子育て支援」「掃除(草取り)」「趣味・特技の援助」「配食」「調理」等、大人社会に求めた回答とほぼ同じ内容の回答であった。  
また、地域参加活動のイメージは、「思いやりのあるもの」「まちづくり」「社会にとって必要」「自ら進んで行う」と前向きな回答結果で、地域の現状をしっかりと受け止め、支え合う社会を望んでいることが伺える。
- (14) 福祉活動として長い歴史をもつ「赤い羽根共同募金」の理解は、成長過程で、小学生の理解度よりも高い94%の回答であった。直接関わっている「学校募金」をはじめ、地域における「戸別募金」「職域募金」等の意義を、更に理解することを期待したい。
- (15) 「ともに、助け合う地域づくりへの提言」(自由意見)では、中学生から、319件の意見をいただいた。この具体的な意見から、「大人社会に向けた提言」として、取りまとめると、  
①若者にもわかる、地域活動の動きを知りたい。(地域活動の「見える化」「わかる化」)  
②若者の意見を地域活動に活かせる機会を考えてほしい。(誰もが参画する地域づくり)  
③若者も気軽に、地域の行事に参加出来る呼掛けを期待したい。(気軽に参加できる環境)  
④それぞれの地域の良さをPRしていくことで、住民が地域に関心をもつ。(地域環境)  
⑤地域情報に、容易にアクセスできる情報提供の工夫(広報啓発の開拓)

## 第5章 資料編

### 2023年度 静岡福祉文化を考える会活動経過記録

月/日	経過記録
03/31	➤ 「2023年度 静岡県社協ふれあい基金助成事業要項」問い合わせ
04/08	➤ 令和5年度静岡市V連絡協議会総会開催
04/15	➤ 協働団体：焼津福祉文化共創研究会通信第44号発行
04/22	➤ 「第49回(4月)焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催
04/22	➤ 第217回委員会開催 ➤ 第1回公開型研修会(全体会)開催
04/26	➤ 「OUR LIFE146号」編集・印刷・発行 メール送信、配布 ➤ 静岡県社協ふれあい基金助成事業の今年度の募集状況問い合わせ ➤ ➡5/10 締切の回答につき、書式を県社協HPより取り寄せる ➤ 静岡県共同募金会2024年度分助成事業募集状況問い合わせ ➤ ➡5/15 締切の回答につき、書式を県共同募金会HPより取り寄せる ➤ 静岡県社協ふれあい基金助成事業(中学生対象調査研究事業20万円)申込書作成作業に取り組む ➤ 静岡県共同募金会2024年度分助成事業(かるた増刷及び活用事例集作成事業54万円)申込書作成作業に取り組む
05/10	➤ 静岡県社協に「ふれあい基金助成事業申込書」提出 ➤ 協働団体：焼津福祉文化共創研究会通信第45号発行
05/15	➤ 静岡県共同募金会に、「令和6年度分助成事業(かるた増刷及び活用事例集作成事業54万円)申込書」提出
05/17	➤ 静岡県共同募金会より、「令和6年度分助成事業申し込み関係書類」を確認した旨、メール連絡あり 今後は、メールで問い合わせをするとの指示有
05/18	➤ 日本財団CANPANデータ登録作業、順次入力作業をする
05/20	➤ 「第50回(5月)焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催
05/22	➤ 「ワーカーズコープ連合」関係者3名来焼し、「医師 中村哲 仕事働くということ」映画上映会の広報啓発要請あり
06/12	➤ 協働団体：焼津福祉文化共創研究会通信第46号発行 ➤ 日本福祉文化学会HP確認(本会は、団体会員加入し3年目) ➤ 「第51回(6月)焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催
06/23	➤ 本会30周年記念誌発行企画書作成作業
06/24	➤ 「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」内定決定の連絡あり
06/27	➤ 「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」内定決定に伴う「申請書」提出
07/04	➤ ヤマト運輸KKより、9月以降集金行為廃止に伴う、支払い方法の打診有
07/07	➤ 「振込(手数料有)方法」を取る旨回答する ➤ 「共創社会実現研究会設置要綱」「調査実施要項」「調査個票」素案作成
07/08	➤ 協働団体：焼津福祉文化共創研究会通信第47号発行 ➤ 「第52回(7月)焼津福祉文化共創研究会」開催
07/13	➤ 「第1回共創社会実現研究会」開催
07/14	➤ 学校関係者と調査研究事業について協議
07/15	➤ 引き続き、学校関係者と調査研究事業について協議
07/17	➤ 「第2回共創社会実現研究会」開催
07/20	➤ 「調査実施要項」「調査票」取りまとめる ➤ 学校関係者に、「調査票」の最終確認をお願いする
07/21	➤ 調査研究事業に関する「印刷作業」について協議
07/28	➤ 日本福祉文化学会へ書類問い合わせ
07/31	➤ 日本福祉文化学会より書類届く 学会へ、3年目団体会員として会費振り込む
08/01	➤ 関係機関・団体へ「調査研究事業」の協力をお願いする

08/05	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「調査研究事業」に関して、「印刷作業」「発送作業」の準備作業に入る</li> <li>➤ 協働団体：焼津福祉文化共創研究会通信第48号発行</li> </ul>
08/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「調査研究事業」に関して協議</li> </ul>
08/09	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「新潟福祉文化を考える会」より、9月30日研修会参加の連絡有</li> </ul>
08/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「調査票」の発送準備作業実施(8/10発送)</li> <li>➤ 「調査事業」に関する連絡調整</li> </ul>
08/11	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「OUR LIFE147号」編集・印刷・発行          メール送信、配布作業</li> <li>➤ 関係機関・団体、役員等に「調査事業」の取り組み状況を情報提供実施</li> <li>➤ 本会「30周年記念誌」資料収集作業実施</li> </ul>
08/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本会「調査報告書」編集作業実施</li> </ul>
08/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本会の会計に関する協議</li> <li>➤ 調査入力フォーマット作成に関する協議</li> </ul>
08/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本会「30周年記念誌」ネット印刷に関する調査実施</li> </ul>
08/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ マスコミに「調査研究事業」の取り組みに関する情報提供実施</li> </ul>
08/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「新潟福祉文化を考える会」との連絡調整（2名来静）</li> <li>➤ 「第53回（8月）焼津福祉文化共創研究会」開催</li> <li>➤ 「第3回共創社会実現研究会（調査部会）」開催</li> </ul>
08/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本会活動状況協議（調査報告書・30年誌・活用事例集等資料作成関係）</li> <li>➤ 本会ブログアクセス件数 本日1038件で最高</li> </ul>
08/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 沼津市子ども関連行政会議において、「調査研究事業」を紹介</li> <li>➤ 会員宛、「新潟福祉文化を考える会」会員来静につき、9月30日のセミナープログラム一部変更を文書で周知、併せて、調査協力を呼び掛ける</li> </ul>
08/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「第22回研究セミナー」当日レジメ編集作業及び印刷作業実施</li> </ul>
09/02	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 調査研究事業に関する協議（フォーマット完成し、データ入力可能となる）</li> </ul>
09/06	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 協働団体：焼津福祉文化共創研究会通信第49号発行</li> <li>➤ 「新潟福祉文化を考える会」会員宛、「第22回研究セミナー当日レジメ」及び関連資料発送</li> </ul>
09/09	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「第54回（9月）焼津福祉文化共創研究会」開催</li> </ul>
09/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「第4回共創社会実現研究会（調査部会）」開催</li> </ul>
09/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 静岡県社協ふれあい基金助成事業経過報告</li> <li>➤ 「第22回研究セミナー」マスコミへ情報提供</li> </ul>
09/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本日現在、「調査票」回収 10か所 62枚</li> </ul>
09/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「新潟福祉文化を考える会」会員との連絡調整</li> </ul>
10/01	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「第218回委員会」開催 「第22回静岡福祉文化研究セミナー」開催</li> <li>➤ 「新潟福祉文化を考える会」会員2名が、「セミナー」に参加、その後、10/1「焼津おもちゃ美術館」と「焼津市福祉会館」を見学案内</li> <li>➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会調査事業の調査票476枚の回答確認</li> </ul>
10/02	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 協働団体：焼津福祉文化共創研究会通信第50号発行(特集4P)</li> </ul>
10/03	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本日までに、調査票286枚回収</li> </ul>
10/06	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「OUR LIFE148号」編集・印刷・発行          メール送信・配布作業</li> <li>➤ 会員宛に「OUR LIFE148号」「第2回公開型研修会」チラシ等送付</li> </ul>
10/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「調査票」138枚入力作業</li> <li>➤ 「第55回（10月）焼津福祉文化共創研究会」開催</li> </ul>
10/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「第5回共創社会実現研究会（調査部会）」開催</li> <li>➤ 本日までに、調査票351枚回収 本日をもって「調査票」回収を終了する</li> </ul>
10/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会調査事業の調査票476枚の入力作業完了</li> <li>➤ 「調査票」351枚の入力作業完了し、単純・クロス集計作業完了</li> <li>➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会調査事業の調査票476枚の単純・クロス集計作業完了し、考察作業に入る 2つの中学校ごとの「単純・クロス集計</li> </ul>

10/25	結果概要」資料を作成し、学校及び関係方面に配布する
10/26	➤ 「単純・クロス集計」資料を基に、考察作業開始
10/30	➤ 調査報告書作成企画書に基づき、作成作業を開始する
	➤ 「OUR LIFE149号」編集作業 発行 メール送信・配布
11/02	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「通信第51号」編集・発行・送信・配布
	➤ 静岡県社会福祉協議会へ助成事業経過報告
	➤ 静岡福祉文化を考える会「調査報告書」執筆作業開始
11/11	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「調査報告書」執筆作業開始
	➤ 「第56回(11月)焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催
12/16	➤ 「第6回共創社会実現研究会(調査部会)」開催
	➤ 「第57回(12月)焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催
	➤ 「第7回共創社会実現研究会(調査部会)」開催
12/20	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「通信第52号」編集・発行・送信・配布
	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「調査報告書」校正作業
	➤ 「OUR LIFE150号」編集作業 発行 メール送信・配布
12/23	➤ 静岡福祉文化を考える会「調査報告書」執筆作業(継続)
1/01	➤ 静岡福祉文化を考える会の当面の運営協議
1/15	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「通信第53号」編集・発行・送信・配布
1/20	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「調査報告書」印刷製本作業(手作り)
	➤ 「第58回(1月)焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催
2/03	➤ 「第8回共創社会実現研究会(調査部会)」開催
	➤ 「第59回(2月)焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催
	➤ 「第9回共創社会実現研究会(調査部会)」開催
2/10	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「調査報告研修会」開催
	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「通信第54号」編集・発行・送信・配布
2/15	➤ 静岡福祉文化を考える会「調査報告書」印刷発注(完全原稿)
2/17	➤ 静岡福祉文化を考える会「調査報告書」納品
	➤ 「第219回委員会」開催
	➤ 「第2回公開型研修会」(助成事業調査報告研修会)開催
2/24	➤ 「第10回共創社会実現研究会(調査部会)」開催(調査研究事業総括)
2/26	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「助成事業実施報告書」を焼津市社会福祉協議会に提出 研究会自費発行調査報告書50部(80P)作成
	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「調査報告書」配布計画に基づき配布作業
3/01	➤ 静岡福祉文化を考える会「調査報告書」を配布計画に基づき配布作業
3/10	➤ 静岡県社会福祉協議会へ「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業実施報告書」を提出
3/23	➤ 「第60回(3月)焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催 (今年度事業総括、2024年度事業計画協議)
	➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「通信第55号」編集・発行・送信・配布
3/30	➤ 「第220回委員会」開催(今年度事業総括、2024年度事業計画協議)
	➤ 「OUR LIFE151号」編集作業 発行 メール送信・配布



## 2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年間の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業  
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業  
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ✕印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業  
 ●印公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業 山印鈴与マッチングギフト助成事業 □印静岡市ボランティア団体連絡協議会助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
1995年 平成7年		★第11回福祉文化・静岡公開現場セミナー 「静岡発みんなで語ろう福祉文化を21世紀の礎に」 (浜松市浜松こども園 プレスタワー) 全国から350名、スタッフ80名		
1996年 平成8年 ①	結婚とは  <b>草創期 ①</b>	○設立総会(平成8年9月) 第1回公開型研修会 会員62名 「高校生の環境マップづくり」 ○第2回公開型研修会 「青年は広野をめざす」 ○第3回公開型研修会 「おいしい結婚まずい結婚」 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会新規加盟		No.1, 2
1997年 平成9年 ②	共働き	○総会・第1回講演会・研修会(座談会) 「家庭と地域と施設を語る」 ○第2回研修会 現場研修 「老人施設と自立した長寿者」 ○第3回研修会 宿泊研修セミナー 「世代・領域を超え、福祉文化を語る」 ○第4回公開研修会 講演会 「高齢者介護の問題点」 ○第5回研修会 現場研修 「特養での実習・長寿者と語る」 ○第6回研修会 公開セミナー「共働きについて」 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第1回共働きに関する意識調査	No.3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
1998年 平成10年 ③	地域とは	○総会・第1回ミーティング(研修会) 「お互いに肌の付き合いを」 ○第2回研修会 現場研修 「地域社会での活動」 ○第3回研修会 宿泊研修セミナー 「世の中どうなってるの?」 ○第4回研修会 現場研修 「障害児によせる地域の人たち」 ○第5回研修会 「映画より 障害者の声」 ○第6回研修会 参加型公開シンポジウム 「歩けなくなる日がやってくる」 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第2回地域に関する意識調査 -その1-	No.10, 11, 12, 13, 14
1999年 平成11年 ④	家族とは	○総会・第1回研修会 「私たちにとって地域とは何か」 ○第2回研修会 合宿体験セミナー 「福祉の裏と表」 ○第3回研修会 現場研修 「在日外国人と日本語、母国の文化」 ★第18回日本福祉文化学会現場セミナー 「宮城まり子さんと福祉文化を学ぶ」 ○第4回研修会 公開シンポジウム「私たちにとって家族は」 ・日本福祉文化学会学術刊物「福祉文化研究第8号」に、 「特集 ー福祉文化と地域性 静岡福祉文化を考える会の実践からの一考察ー」寄稿 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第3回家族に関する実態調査	No.15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22
2000年 平成12年 ⑤	父親とは	○総会・第1回公開トークシンポジウム 「今日まで そして明日から」 ○第2回研修会 合宿体験セミナー 「親と子 それぞれの言い分」 ○第3回研修会 公開シンポジウム 「福祉文化へチャレンジ 障害者の余暇文化」 ○第4回研修会 公開セミナー 「私たちにとって父親とはなにか?」 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第4回父親像に関する実態調査	No.23, 24, 25, 26

## 2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年間の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業  
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業  
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ※印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業  
 ●印公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業 山印鈴与マッチングギフト助成事業 □印静岡市ボランティア団体連絡協議会助成事業

年度	活動テーマ	実 績	調 査 研 究	機 関 誌 発 行
2001年 平成13年 ⑥	ボランティア活動とは	○総会・第1回公開トーク 「ボランティアはただ働きの代名詞か」 ○第2回研修会 公開型合宿セミナー 「何か変だぞ? ボランティア活動」 ○第3回研修会 国際年 2001年ボランティア EXPO 「ボランティアはただ働きの代名詞か」 ○第4回研修会 公開シンポジウム 「ボランティア実践者意識調査報告」 ○★第12回日本福祉文化学会全国大会高知大会 ・第13回学会大会静岡大会開催準備状況報告 ・発表:地域ニーズの把握と福祉文化活動のプロセス —静岡福祉文化を考える会 5年間の取り組みから— ○★第13回日本福祉文化学会全国大会 in しずおかプレ大会 「富士山麓 21世紀～福祉文化の今とこれから～」 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第5回ボランティア活動実践者の実態調査	No.27, 28, 29, 30, 31
2002年 平成14年 ⑦	働く人の暮らし  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">協働期 ②</div>	○総会・第1回公開トーク 「福祉文化の原点を探る」 ○第2回研修会 合宿セミナー 「福祉文化の創造とは」 ○★第13回日本福祉文化学会全国大会 in しずおか ・基調報告:地域福祉と福祉文化の創造に向けて ・発表①:公開型研修会が地域を掘り起こす福祉文化活動 ・発表②:ボランティア国際年に問題提起 —静岡県内ボランティア活動実践者の意識調査結果から— ・発表③:「地域社会」と福祉文化活動の一考察 ・発表④:「情報化社会」と福祉文化活動の一考察 ○第1回静岡県福祉文化研究セミナー 「富士山麓いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」 ○第3回研修会 公開トーク「生きること・働くこと楽しいですか」 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第6回働くこと・生きること、生活者の意識調査	No.32, 33, 34, 35
2003年 平成15年 ⑧	青年の生きがい	○総会・第1回研修会「精神障害者の生活支援と余暇文化」 ○第2回研修会 合宿体験セミナー「大人の言い分 青少年の言分」 ○第3回研修会 公開型研修会「青年の生きがいを探ろう」 ○第2回静岡県福祉文化研究セミナー 「大人も子どもも障害者も高齢者も豊かに生きるための福祉文化」 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第7回青少年の生きがい・就労に関する意識調査	
2004年 平成16年 ⑨	地域とはⅡ	○総会・第1回公開トーク 「福祉文化を創造する地域づくり」 ○第2回研修会 合宿セミナー「町づくり・こんな町に住みたい」 ○第3回静岡県福祉文化研究セミナー「地域福祉と福祉文化活動」 ○第3回研修会 公開研修会「検証/福祉文化と地域づくり」 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第8回地域に関する意識調査 -その2-	No.36, 37, 38, 39
2005年 平成17年 ⑩	子どもたちを取りまく諸問題	○総会・第1回研修会「福祉文化の原点を探る～子どもと地域をつなぐ」 ○第4回静岡県福祉文化研究セミナー 「つながる地域に、福祉文化を発信できる新たなまちづくりを語ろう」 ※○「はっぴい祭2005」第2回研修会 ○第3回研修会 公開型トーク 「大いに語ろう、地域ぐるみで子ども達を育むには」 ・日本福祉文化学会発行「2004年度学会年次報告第1号」に、本会活動中心に展開している「学会中部東海ブロック活動報告」寄稿 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第9回子どもと保護者の意識調査	No.40
2006年 平成18年 ⑪	子どもたちと地域環境	○第1回総会・自由討議 今後の「静岡福祉文化を考える会」の再生に向けて ※「わんぱくあそびフェスティバル 2006」 第2回研修会 公開型研修会 ※「はっぴい祭 2006」 第3回研修会 公開型研修会 「温かな住みよい地域づくりを語る」 ○第5回静岡県福祉文化研究セミナー	第10回子どもと社会環境に関する調査	No.41, 42, 43, 44, 45

## 2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年間の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業  
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業  
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ※印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業  
 ●印公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業 山印鈴与マッチングギフト助成事業 □印静岡市ボランティア団体連絡協議会助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
		「静岡から発信する『福祉文化の創造』とはなにか」 ○第4回研修会 座談会「子どもたち、その実情とこれからを・・・」 ○第5回研修会 公開研修会「地域ぐるみで子どもを育む講座」 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続		
2007年 平成19年 ⑫	団塊の世代	○第1回研修会 公開型研修会 全国一斉「あそびの日」キャンペーン事業 ※「わんぱくあそびフェスティバル 2007」 ○総会・第2回公開トーク「世間は団塊の世代を議論しているが・・・」 第3回研修会 公開型研修会 ※「はっぴい祭 2007」 ○第6回静岡県福祉文化研究セミナー 「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」から何が見えたか ・静岡福祉文化を考える会「10周年記念誌—静岡発 福祉文化の実践と推進」発行 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第11回「地域活動」と「団塊の世代」の役割に関する調査	No.46, 47, 48, 49
2008年 平成20年 ⑬	長寿者(高齢者)の自立  <b>実践融合期 ⑬</b>	○静岡福祉文化を考える会 10周年記念誌発行 ○総会・第1回公開型研修会(トーク) 「地域で豊かに暮らし合うための条件—長寿者と福祉文化—」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 「ほっとする居場所、ここが一番居心地がいい」 ■第3回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉 in めまづ」 ■第7回静岡県福祉文化研究セミナー (日本福祉文化学会ブロック研修)(県委託事業) 「長寿者とともに暮らす 共生社会づくりの担い手は一体誰か？」 ■県委託事業「ひとりでも安心して暮らせる地域づくり4地区モデル事業」 (沼津市、富士川町、掛川市、袋井市) 第25回中日ボランティア賞受賞 平成20年度「みずほ福祉助成財団」より助成 第6回静岡市社会福祉大会会長表彰受賞 ■平成20年度県委託事業関係者連絡会 2回(7月、3月)開催 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第12回県共募助成事業 長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査  第13回県委託事業 日常生活と福祉情報に関する調査	No.50, 51, 52, 53, 54, 55
2009年 平成21年 ⑭	長寿社会(地域づくり)	○総会・第1回公開型研修会 公開トーク「共生社会と福祉文化」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 現場小セミナー「私にとって、心安らぐ居場所って何処？」 —自宅以外の『もうひとつの家』誕生地域の支え合いを学ぶ— ■第3回公開型研修会(県委託事業) 現場小セミナー 公開トーク 「協働による福祉社会再構築と福祉文化を大いに語ろう」 ■第8回静岡県福祉文化研究セミナー(パノラマ式討論) 「長寿者とともに小地域をつなぐ仕組みづくり実現にむけて」 ■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 4地区モデル事業 (小山町、伊豆の国市、焼津市小川第11自治会、菊川市) ■第4回公開型研修会(県委託事業・焼津市小川第11自治会主催) 「ご近所福祉インこがわ」 ■第5回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉 in めまづ」 第5回福祉文化実践学会賞受賞 (平成22年2月28日に日本福祉文化学会第20回東京大会で受賞) ■平成21年度県委託事業 関係者連絡会 3回(7月、11月、3月)開催 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第14回県委託事業 長寿社会に関する県民意識と実態調査	No.56, 57, 58, 59, 60
2010年 平成22年 ⑮	生活圏域の支え合い	○総会・第1回研修(公開トーク) 「一人でも安心して暮らせる地域づくりの条件」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 井戸端会議方式/徹底討論 「これからのご近所の支え合いはどうなるの？」	第15回県委託事業 いまこそ、地域社会に福祉文化を拓く「生活圏域における支え合いとはなにか、本音に迫る調査」	No.61, 62, 63, 64, 65, 66

## 2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年間の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業  
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業  
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ※印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業  
 ●印公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業 山印鈴与マッチングギフト助成事業 □印静岡市ボランティア団体連絡協議会助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■第3回公開型研修会(県委託事業) 追跡討論「サロンは何をめざすのか」</li> <li>■第9回静岡県福祉文化研究セミナー「オープン式KJ法に挑戦」 「地方発 福祉文化の創造—これからのご近所づくりの原点を探る—」</li> <li>■第4回公開型研修会(県委託事業) 「これまでとこれから—生活圏域の支え合いの仕組みづくりの提案—」</li> <li>■第5回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉 in めまつ」</li> <li>■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 5地区モデル事業 (藤枝市、磐田市、富士宮市、西伊豆町、沼津市)</li> <li>■平成22年度委託事業関係者連絡会 3回(7月、11月3月)</li> <li>△福祉コミュニティ講座 「ほっとする、私が主役の福祉のまちづくりにチャレンジ」4回シリーズ</li> <li>△みんな仲間集まれ「ウェルフェア塾」4回シリーズ</li> <li>△特別公開型研修会「共生社会実現への道程」</li> <li>・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続</li> </ul>		
2011年 平成23年 ⑩	生活圏域で一人ひとりの居場所を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総会・第1回公開型研修会 全体ディスカッション 「これまでとこれから—静岡発 福祉文化の創造—」</li> <li>△福祉コミュニティ講座(第2回公開型研修会) 住民主体の「福祉コミュニティづくり」を学ぶ —福祉施設で「福祉コミュニティ講座」を開講—4回シリーズ</li> <li>■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 5地区モデル事業(富士宮市、西伊豆町、川根本町、袋井市)</li> <li>■第10回静岡県福祉文化研究セミナー 「世代を超えて、“ご近所の支え合い”を語り合う」</li> <li>■第3回公開型研修会(県委託事業) 福祉文化の創造の原点に返って—世代を超えて語りあう—</li> <li>■第4回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉 in めまつ」</li> <li>■平成23年度委託事業関係者連絡会 3回(8月、12月、3月)</li> <li>■第5回公開型研修会(県委託事業) 「共生社会実現への道程研修会」</li> <li>△「みんな仲間、集まれ『ウェルフェア塾』」(4回シリーズ)</li> <li>・日本福祉文化学会「福祉文化実践報告集第号」に、「地域課題把握の調査活動と“地方発 福祉文化の創造”への取り組み」寄稿</li> <li>・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続</li> </ul>	第16回県委託事業 「地域と私の居場所その意識と実態調査」	No.67, 68, 69, 70, 71, 72
2012年 平成24年 ⑪	家族って何？私の居場所があるのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総会・第1回公開型研修会 「今、あらためて“家族の実情”に迫る— —ご近所とつながる家族機能を考える—」</li> <li>■第2回公開型研修会(県委託事業) 実践活動に学ぶ/グループワーク 「誰が担う？つながる地域 支え合う地域—世代を超えて、今こそ語ろう 考えようこれからの私の居場所」</li> <li>△第3回公開型研修会 「実践活動から学ぶ—つながる地域・支え合う地域—」</li> <li>■△第4回公開型研修会 『福祉コミュニティ講座—地域と家族のつながり—』(2回シリーズ) —地域に“私の居場所はありますか—楽しいを創造する地域とは”</li> <li>■第11回静岡県福祉文化研究セミナー(第5回公開型) 「福祉文化と家族—これまでの家族・これからの家族—」</li> <li>■第6回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉 in めまつ」</li> <li>△■第7回公開型研修会『共生社会実現への道程研修会』 「一人でも安心して暮らせる地域づくりとは—」</li> <li>△福祉コミュニティ講座(第8回公開型研修会) 「ホットな出会い 楽しい遊び」</li> <li>△「みんな仲間、集まれ『ウェルフェア塾』」(6回シリーズ)</li> <li>■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」</li> </ul>	第17回県委託事業 今、あらためて、“家族の実像”に迫る 私にとって、家族ってなに？その意識と実態調査	No.73, 74, 75, 76, 77

# 2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年間の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業  
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業  
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ✕ 印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業  
 ●印公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業 山印鈴与マッチングギフト助成事業 □印静岡市ボランティア団体連絡協議会助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
		5地区モデル事業 (熱海市、牧ノ原市、掛川市、西伊豆町、富士宮市、沼津市) ■平成 24 年度委託事業関係者連絡会 3回(7月、12月、3月) 平成 24 年度静岡県社会福祉協議会会長賞受賞 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続		
2013年 平成 25年 ⑱	ここが一番ホットとする私たちのご近所の居場所づくり	○総会・第1回公開型研修会 「つながるご近所の再構築の決め手は？」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 住民主体でご近所を診断「長寿者が輝く これからの“ご近所”を創る」 ■第3回公開型研修会 「ご近所の支え合いの取組みを学ぶ—実践事例からの検証—」 ■第4回公開型研修会 (第 12 回福祉文化研究セミナーとして開催) 『誰がご近所福祉を創るか、これが一番、ホットとする支え合い』 ■第5回公開型研修会 (県委託事業、沼津市社協主催)「ご近所福祉 in ぬまづ」 ■第6回公開型研修会 「長寿者から学ぶ“ご近所福祉”」大石さき様宅訪問 ■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 7地区モデル事業 (熱海市、牧ノ原市、沼津市、長泉町、島田市、御前崎市、森町) ■平成 25 年度委託事業関係者連絡会 2回(7月、3月) ■「ご近所福祉かるた」制作企画検討(次年度継続) ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第18 回県委託事業 ホットとするご近所づくり その意識と実態調査	No.79, 80,81, 82, 83
2014年 平成 26年 ⑲	人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり	○総会・第1回公開型研修会 福祉文化ってなに？その①豊かに暮らしあえる地域を大いに語ろう」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 「福祉文化ってなに？その② 地域の豊かさとは何か」 ■第3回公開型研修会(県委託事業)(第 13 回福祉文化研究セミナーとして開催)「静岡発 福祉文化の創造 —人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり—」 ■第4回公開型研修会(県委託事業) 「鈴木君なぜ地域参加するの？ 山田君なぜ地域参加しないの？」 ○第5回公開型研修会 「地域の豊かさとは—静岡発 福祉文化活動からの検証—」 ■若者の「訪問型研修会」から長寿者を取り巻く地域問題解決の提言 計10回、延べ 152 名が訪問 ■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 6年間の実践的活動地区の総合的検証 ■共創社会実現研究会(23名の委員構成)の設置と4回開催 ■「ご近所福祉かるた」制作に向けた協議(次年度継続) ○▲あしたの日本を創る協会「生活会議」助成事業 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第19 回県委託事業 豊かに暮らせる地域づくり その意識と実態調査	No.84, 85,86, 87, 88
2015年 平成 27年 ⑳	静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり  共創社会 実現期 ㉑	○総会・第1回公開型研修会 「今こそ、静岡発 福祉文化の創造をめざして 豊かな地域づくりを語ろう」 ○第2回公開型研修会 「地域住民が集まる居場所とは」 ○第3回公開型研修会 「私の地域を知っていますか、まずは地域の豊かさづくりから」 ○第4回公開型研修会 「地域ぐるみの学び合いで語れる環境を創る」 ○第5回公開型研修会 「福祉課題解決に、私の地域の社会資源をどう活かすか」 ○第14回静岡県福祉文化研究セミナー 「静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり」 ○第6回公開型研修会 「福祉情報の共有化と地域の支え合い」 ○第7回公開型研修会 「20年をこれからの原点に一当たり前のことが当たり前に出来る地域とは—」 ✕○若者発 ご近所福祉かるたの創作と地域学習の開拓 県共同募金助成事業(かるた100セット作成)	第 20 回 若者の地域参加 その意識と実態調査	No.94, 95,96, 97, 98,99, 100, 101, 102, 103

## 2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年間の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業  
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業  
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ※印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業  
 ●印公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業 山印鈴与マッチングギフト助成事業 □印静岡市ボランティア団体連絡協議会助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
		○「共創社会実現研究会」設置(12回開催) ○「若者発”居場所”あり方研究会」設置(9回開催) ○静岡福祉文化を考える会 20周年記念誌発行(200部) ○▲あしたの日本を創る協会「生活会議」事業の取り組み(助成事業) ・静岡福祉文化を考える会「20周年記念誌—静岡発 福祉文化の創造 20年 これまでとこれから—」発行 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続		
2016年 平成28年 ⑳	静岡発 福祉文化の創造とご近所福祉	○総会・第1回公開型研修会 「静岡福祉文化を考える会これまでとこれから」 ○第2回公開型研修会「いかに地域性を発揮したご近所福祉を創るか」 ○第3回公開型研修会 「静岡発福祉文化の創造とご近所福祉を総括する」 ○第15回静岡県福祉文化研究セミナー 「静岡発福祉文化の創造と豊かなご近所福祉づくり」 山○鈴与マッチングギフト助成事業による「若者発 ご近所福祉かるた」拡大版2セット作成と活用開拓 ○「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用によるご近所福祉の検証及び「拡大かるた」の有効活用 ○富士宮市富士根南地区社会福祉協議会 10周年記念誌「ふれ愛」に、「若者発 ご近所福祉かるた」掲載 ○「焼津市新しい地域支援のあり方考えるフォーラム」運営協力 ○沼津市社会福祉協議会主催「沼津市ワークショップ」協力 ○「共創社会実現研究会」の設置(6回開催) ○常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」への支援と協働活動の展開 ○あしたの日本を創る協会「生活会議」事業の取り組み(新しい地域課題・助成事業) ○焼津市教育委員会主催「おしゃべりカフェ」運営協力 ○焼津市港地域づくり推進会主催「港地域ささえあい講座」協力 □静岡市ボランティア団体連絡協議会助成事業 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第21回 ご近所福祉その意識と実態調査(調査報告書は、静岡市V連絡協議会助成により100部作成)	No.104, 105, 106, 107, 108, 109, 110
2017年 平成29年 ㉑	ご近所福祉で集まる地域ぐるみの居場所を拓く	○総会・第1回公開型研修会「ご近所福祉と居場所」 ☆第2回公開型研修会 「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりを拓く」 ☆第3回公開型研修会「地域ぐるみの居場所をめざす」 ☆第16回静岡県福祉文化研究セミナー 「静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所」 ☆「共創社会研究会」の設置(4回開催) ○焼津市港地域づくり推進会主催「港地域ささえあい講座」協力 ○「いかずい北川原」居場所協力(焼津市) ▲あしたの日本を創る協会「新しい地域課題(全国的な課題)助成事業」 ◆平成29年度静岡県社会福祉協議会ふれあい基金地域福祉・ボランティア活動等推進助成事業 ☆ふじのくに未来財団「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業—ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言」助成事業 ○常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」への支援と協働活動の展開 ○「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用によるご近所福祉の検証及び「拡大かるた」の有効活用 H.29年度静岡市表彰受賞 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第22回 居場所ってなに？ その意識と実態調査(静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成・あしたの日本を創る協会助成・ふじのくに未来財団助成)	No.111,112, 113, 114, 115, 116
2018年 平成30年 ㉒	子どもを育む地域づくりとは	○総会・第1回公開型研修会 「福祉文化と子どもを育む地域づくりを考える」 ○第2回公開型研修「支え合う地域ぐるみの“子供の居場所”を考える」 ○第3回公開型研修会 「子どもたちが安心して暮らせる地域づくりとは」 ○第17回静岡県福祉文化研究セミナー	第23回 子どもを育む地域づくりその意識と実態調査(あしたの日本を創る協会助成)	No.118,119, 120,121

## 2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年間の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業  
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業  
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ✕印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業  
 ●印公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業 山印鈴与マッチングギフト助成事業 □印静岡市ボランティア団体連絡協議会助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
		「静岡発 福祉文化の創造と子ども支援を考える」 ○焼津市港地域づくり推進会主催 「港地域ささえあい講座」協力(全4回) ○「焼津市いかずい北川原居場所」協力 ○「若者発“居場所”あり方研究会」(常葉大学同好会)への情報提供 ○「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用によるご近所福祉の検証及び「拡大かるた」の有効活用 ○県内要請市町研修支援 ○第29回日本福祉文化学会大阪大会において実践発表 テーマ:「本会の23年間の福祉文化実践のプロセス」 ○第30回日本福祉文化学会東海大会側面的支援(実行委員会出席) ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続		
2019年 平成31年 令和元年 ㉔	子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみのささえあいの仕組みづくり	○総会・第1回公開型研修会「子どもと福祉文化を語ろう」 ◆第2回公開型研修会「地域の子ども支援の実践に学ぶ」 ◆第3回公開型研修会 「大人が変わる、地域が変わる、子どもが変わる、ホッとする地域とは」 ◆第18回静岡県福祉文化研究セミナー「福祉文化と子ども」 ○第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会 「名古屋発、“福祉文化元年”を築く ～ 今こそ、人を育てる、アートを創る ～」 側面的支援(実行委員会出席)及びシンポジウム及び研究発表4題 ・シンポジウム:「地方発 福祉文化でご近所福祉を拓くで」提言 ・発表①:子どもを育む地域づくりその意識と実態検証 静岡発 福祉文化の創造 24年間の調査研究活動のプロセスから ・発表②:専門性と市民性の融合による地域のネットワークを探る ・発表③:地域包括ケアシステムへの理解と共感に向けた取り組み -“若者発 ご近所福祉かるた”で地域づくり- ◆共創社会研究会設置(3回開催) ○「いかずい北川原」居場所協力(焼津市) ▲あしたの日本を創る協会「2019年度全国的な課題」助成事業 ◆静岡県社会福祉協議会ふれあい基金地域福祉・ボランティア活動等助成事業 ○「焼津福祉文化共創研究会」協力 ○静岡県コミュニティづくり推進協議会「令和発・コミュニティ読本」編集協力 (「若者発 ご近所福祉かるた」掲載協力) ○「若者発 ご近所福祉かるた」(拡大かるた)の有効活用 ◆子ども実践地区検証事業(4地区) ・日本福祉文化学会学術刊行物「福祉文化研究第29号」に、「特集 拝見! ブロック活動:中部東海ブロック編 本会との関連性」寄稿 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	* 第23回子どもを育む地域づくり② * 第24回256名の子どもたちに聞きましたホッとする地域ですか(静岡県社協ふれあい基金助成事業)	No.122, 123, 124,125, 126,127
2020年 令和2年 ㉕	つなご近所再構築 決め手は一体何か ご近所福祉の復活①	○総会・第1回公開型研修会(資料配布) 「私のご近所 これからのご近所を創る」 ○第2回公開型研修会「ご近所を診断する」 ○第3回公開型研修会 「これで安心 ホットするご近所」 ○第19回静岡県福祉文化研究セミナー 「ホットするご近所のささえあいは誰が創る？」 ○「いかずい北川原」居場所協力(焼津市) ○「焼津福祉文化共創研究会」との協働 ○「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用 ○関係機関・団体との情報提供 ○本会ブログ立ち上げ ○「日本福祉文化学会」HPと「焼津福祉文化共創研究会」ブログとのリンクによる情報共有 ○本会25周年記念調査報告書発行 令和2年度みずほ教育福祉財団助成事業決定(プロジェクト機材) ・静岡福祉文化を考える会 「25周年記念調査報告書(25年間の年表挿入)」発行 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続	第25回ご近所福祉その意識と実態調査	No. 129,130,131 132,133

ご近所福祉  
検証期 ㉕

## 2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年間の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業  
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業  
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ✕印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業  
 ●印公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業 山印鈴与マッチングギフト助成事業 □印静岡市ボランティア団体連絡協議会助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
2021年 令和3年 ⑥	地域を家庭化する“ご近所福祉”を創る支え合いを探る	○総会・第1回公開型研修会 「ご近所福祉その意識と実態から、課題提起を探る」 ○第2回公開型研修会 「住民福祉教育の成果とご近所福祉かるたの活用」 ○第3回公開型研修会 「地域を家庭化する“ご近所福祉”を創る支え合いを探る」 ○第20回静岡県福祉文化研究セミナー「ご近所福祉と福祉文化」 ○「焼津福祉文化共創研究会」との協働 ✕静岡県共同募金会助成事業 かるた活用状況調査実施 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用拡大と住民福祉教育開拓事業 ・若者発ご近所福祉かるた100セット増刷作成 ・若者発ご近所福祉かるた利用の手引き作成(200部) ・共創社会実現研究会設置(外部委員3名)とかるた有効活用議論 ○関係機関・団体との情報提供 ○本会ブログと「焼津福祉文化共創研究会」ブログとのリンク ▲あしたの日本を創る協会「政策提言」助成事業 ◇さわやか福祉財団地域ささえあい基金助成事業 ・鈴与マッチングギフト助成事業決定(拡大かるた2セット作成) ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続 ・日本福祉文化学会団体会員新規加盟 ・小さな親切運動本部発行「小さな親切」季刊誌に「若者発 ご近所福祉かるた」記事掲載 ○「いかずい北川原」居場所協力(焼津市)	第26回福祉ってなに？ 461名の子どもたちに聞きました調査 (さわやか福祉財団、あしたの日本を創る協会助成事業)	No.134.135 136,137,138 139
2022年 令和4年 ⑦	ホッとする豊かな地域づくりを拓く“共生社会”実現を探る	○総会・第1回公開型研修会 「静岡発福祉文化の創造」26年間のプロセスを探る ○第2回公開型研修会 「ホッとする豊かな地域づくりは誰が担う？」 ○第3回公開型研修会「ホッとする豊かな地域づくりを描く」 ○第21回静岡県福祉文化研究セミナー 「“ご近所福祉”から描く福祉文化」 ○「焼津福祉文化共創研究会」との協働 ○「地域共生社会調査研究部会」設置 ○関係機関・団体との情報提供 ●公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業 ○本会ブログと「焼津福祉文化共創研究会」ブログとのリンク ○「若者発ご近所福祉かるた」の有効活用の把握 ○「いかずい北川原」居場所協力(焼津市) ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続 ・日本福祉文化学会団体会員加入(新規) ・令和4年度静岡県健康福祉大会で表彰受ける	第27回ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査 (愛恵福祉支援財団助成事業)	No. 140.141,142, 143.144, 145
2023年 令和5年 ⑧	世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”を描く	◆静岡県社協 ふれあい基金地域福祉・ボランティア活動等助成事業 ○総会・第1回公開型研修会 「静岡発 福祉文化の創造とは ～福祉文化の原点を探～」 ○第2回公開型研修会(調査結果報告研修会) 「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”を描く」 ○第22回静岡県福祉文化研究セミナー 「教育と福祉の融合と“福祉文化”」 ○本会ブログ継続維持と「焼津福祉文化共創研究会」ブログ共有 ○「若者発ご近所福祉かるた」の有効活用の把握 次年度に向けて「かるた活用事例集」企画検討作業 ○「焼津福祉文化共創研究会」との協働 ○◎「共創社会実現研究会(調査部会)」設置議論(計10回開催) ○関係機関・団体との情報提供 ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続 ・日本福祉文化学会団体会員継続加入 ・本会30周年誌編集作業開始 ・「新潟福祉文化を考える会」との意見交換	第28回私にとって、“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査(静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)	No. 146.147,148, 149,150.151

●2023年度静岡県社会福祉協議会ふれあい基金地域福祉・ボランティア活動等推進助成事業  
静岡福祉文化を考える会「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態検証事業」

## 「共創社会実現研究会」設置要綱

### 1. 設置目的

今日、地域コミュニティへの参画の希薄化とともに、家族機能やご近所のささえあいは、制度や施策等公助ありきの意図的支援が当たり前のような社会環境になりつつある。

加えて、長引く、厳しいコロナ禍において、ますます、地域コミュニティのつながりやご近所のささえあいが弱くなっている。こうした制約された社会環境の中で、ようやく、地域社会に明るい兆しが見えてきたこの時期に、とかく、地域活動から疎遠となりがちな中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加を呼びかけ、世代間交流を通じて地域づくりの再構築を検証する目的で「私にとって“ご近所”とは その意識と実態調査」を実施する。

この調査を実施するにあたり、地域社会の現状認識、計画に基づく円滑な調査の展開協議(調査個票作成、調査集計・分析、調査結果考察、調査報告書編集、調査公表検討等)の議論を深めるとともに、調査結果をもとに、地域の教育力、次世代の地域の担い手の育成の課題や、若い世代の積極的な地域参加できる地域環境を醸成し、世代を超えた地域ぐるみの支え合いにより、地域共生社会づくりのあり方を大人社会に提言するための議論をする目的で設置する。

### 2. 構成

専門性と市民性を融合した住民主体を基本に、本会会員、協働団体会員及び、本事業に関心を持つ関係者の自発的な参画による構成をもって運営する。

### 3. 協力

これまで、本会及び焼津福祉文化共創研究会から情報提供してきた関係領域及び地域活動実践者

### 4. 設置期間と研究会開催日

(1)設置期間 本事業活動期間(令和5年7月1日より令和6年3月31日まで)

(2)開催時期

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	7月 8日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識、課題整理
第2回	7月 15日(土)18:30 北川原公会堂	調査実施計画協議(調査実施要項・調査個票)
第3回	8月 19日(土)18:30 北川原公会堂	・調査票配布検討、調査実施上の課題反響、調査集計作業
第4回	9月 9日(土)18:30 北川原公会堂	調査回収状況、調査集計作業、協働の課題
第5回	10月14日(土)18:30 北川原公会堂	調査集計作業及び考察作業(意識と実態と提言)
第6回	11月11日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察①
第7回	12月16日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察②
第8回	1月13日(土)18:30 北川原公会堂	調査報告書ページ仕立て作業、入稿、報告研修会計画
第9回	2月 3日(土)10:00 焼津市石津コミセン	調査報告書完成、調査結果の検証、調査報告研修
第10回	2月24日(土)18:30 北川原公会堂	研究会総括(成果) 県社協への報告確認

### 5. 研究会の運営・連絡先

(1)本研究会の運営は、「静岡福祉文化を考える会」と「焼津福祉文化共創研究会」が協働で実施する。

(2)本研究会の連絡先 〒425-0041 焼津市石津 751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚  
電話&FAX 054-624-1924 携帯 090-4861-4547

●2023 年度 静岡県社協ふれあい基金 地域福祉・ボランティア活動等推進助成事業  
静岡福祉文化を考える会 調査研究事業

## 「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」実施要項

### 1. 調査の目的

「静岡福祉文化を考える会」は、この 27 年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にして取り組んできた。主な調査内容は、「共働き」「地域」「家族」「父親」「ボランティア活動」「生きがいと就労」「青少年の生きがい」「子どもと社会環境」「団塊に世代」「長寿者の生きがい」「日常生活と福祉情報」「長寿社会」「支え合い」「居場所」「地域づくり」「若者の社会参加」「ご近所の支え合い」「ご近所福祉」「子どもを育む」「福祉ってなに」「ホッとする地域」。

また、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

今年度は、「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”を描く」の本会活動テーマをもとに、これまで、地域社会では、中学生の地域参加を大いに期待しながらも、地域コミュニティの希薄化・家庭・家族機能やご近所福祉（支え合い）の多様化とともに、その基盤が不透明化、加えて厳しいコロナ禍下において、一方では、制度や公助による意図的な支援が当たり前の社会環境にある中で、住民主体の地域の支え合いや、若者との日常的な交流環境には至っていない。

ようやく、ここに来て、地域社会に明るい兆しが見えてきた時期に、これからの地域づくりに向けて、地域社会に関心を抱き、近い将来、地域の担い手を期待し、中学生を対象に。身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加の必要性を呼びかけるとともに、世代間交流できるこれからの地域づくりに向けて、大人社会に提言する目的で本調査を実施する。

2. 実施主体 静岡福祉文化を考える会

3. 協働団体 焼津福祉文化共創研究会

4. 調査対象 静岡県内の中学生（1～3年生）を対象に、約 300 名の回答を目標に実施。

5. 調査依頼／配布方法 本会会員、静岡県内の関係団体、地域実践者等の協力により実施。

### 6. 調査項目

\* 学校関係者の指導助言、生徒等からの意見をもとに「共創社会実現研究会(調査部会)」において協議し、調査項目（6項目、35の設問をA3版両面）をまとめる。

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| (1) 基本属性        | (4) 地域社会・地域活動に関すること     |
| (2) 生活状況        | (5) 地域社会における福祉実体験に関すること |
| (3) 家庭・家族に関すること | (6) 福祉社会への期待・提言（自由意見）   |

### 7. 調査の展開

- |   |                           |
|---|---------------------------|
| (1) 調査実施要項・調査票（項目）検討                    | … 2023年07月～2023年08月上旬     |
| * 「本会委員会」, 「共創社会実現研究会」を中心に検討            |                           |
| (2) 調査実施要項・調査票完成                        | … 2023年08月05日             |
| (3) 調査依頼（実施期間）                          | … 2023年08月05日～2023年09月30日 |
| * 回収まとめ…2023年09月30日                     |                           |
| (4) 入力期間                                | … 2023年10月01日～2023年11月30日 |
| (5) 分析・考察                               | … 2023年12月01日～2024年2月01日  |
| (6) 調査報告書完成                             | … 2024年02月10日             |
| (7) 公表・報告                               | … 2024年02月中旬              |
| * 公開型調査報告研修会(2/17), 関係機関・団体等の各種研修会に情報提供 |                           |
| * 本会機関紙（「Our Life」）で経過報告及び考察概要掲載        |                           |

### 8. 問合せ先・取りまとめ先

〒425-0041 焼津市石津 751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚

TEL & FAX: 054-624-1924 携帯: 090-4861-4547 Email: [monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp](mailto:monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp)

● この事業は、「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金」により、実施します。

## 「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」にご協力ください

「静岡福祉文化を考える会」は、さまざまな福祉・ボランティア活動や福祉職に携わる人と市民が一緒に、地域が抱えている生活全般の諸問題を考え、その改善のために努力していく目的で、1996年度に活動を始めて、28年目を迎えています。

これまで、「共働き」、「地域」、「家族」、「父親」、「ボランティア活動」、「生きがいと疲労」、「青少年の生きがい」、「子どもと社会環境」、「団塊の世代」、「長寿者の生きがい」、「日常生活と福祉情報」、「長寿社会」、「支え合い」、「居場所」、「地域づくり」、「若者の社会参加」、「ご近所の支え合い」、「ご近所福祉」、「子どもを育む」、「福祉ってなに?」、「ホッとする地域」等をテーマに「調査研究活動」に取り組み、県民に地域の課題を提起してきました。

今年度は、初めて、中学生（1年生～3年生）の皆さんに、これからの地域づくりに向けて、皆さんの日常生活のこと、家庭・家族のこと、地域社会（自治会・区・町内会、組・ご近所）や地域活動のこと、身近な地域における福祉体験のこと、地域社会に期待すること等の調査に協力をお願い致します。皆さんからいただいたご意見は、「安全で安心した地域づくり」に活かして参ります。どうぞよろしくお願ひします。

### ■ 回答に当たり...

- 各調査の設問に、特に指定がなければ、該当する番号1つに○をつけてください。
- 各調査の設問に、指定がある場合は、指定の範囲内の選択数でお答えください。
- 設問の回答が難しい場合は、次の設問に進んでください。
- 「その他( )」を選んだ場合は、( )に、具体的に記入してください。

- この調査は、「静岡県社会福祉協議会ふれあい募金」により実施しています。

2023年8月10日

静岡福祉文化を考える会

設問01. あなたのことについて、お答えください。

問01. 性別: ①男性 ②女性

問02. 学年: ①1年生 ②2年生 ③3年生

問03. あなたの家族についてお答えください。

①祖父母と一緒に暮らしている ②親と子どもだけで暮らしている

③その他( )

問04. あなたは、あなたを含めて、何人兄弟姉妹ですか。

①1人 ②2人 ③3人 ④4人以上

問05. あなたは、県内のどの地域に住んでいますか。

①東部地域 ②中部地域 ③西部地域

設問02. あなたは、今、趣味や特技がありますか。

①ある ②ない

設問03. 設問02で「①ある」と答えた人に聞きます。あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思いませんか。

■ 「私の趣味や特技」→ ( )

①大いに思う ②機会があれば活かそうと思う ③あまり思わない ④まったく思わない

⑤わからない

設問04. あなたは、今の生活に満足していますか。

①大いに満足している ②満足している ③やや不満足である ④大いに不満足である

⑤わからない

設問05. あなたには、今悩んでいることや心配なこと、困っていることはありませんか。

主なものを3つまでお答えください。

①家族・家庭のこと ②兄弟姉妹のこと ③学校の勉強のこと ④友達関係のこと ⑤進学のこと  
⑥将来のこと ⑦自分自身のこと(外見・身長・体重・性格・健康等) ⑧その他( )  
⑨困っていない

設問06. あなたには、自分のことで困ったときは主に、誰に話したり相談したりしますか。

主なものを3つまでお答えください。

①友人 ②父親 ③母親 ④学校の先生 ⑤祖父 ⑥親戚の人 ⑦兄弟姉妹  
⑧その他の人( ) ⑨誰にも相談しない ⑩困っていない

設問07. あなたには、「ホッとする、安心した居場所」はありますか。

①ある ②ない ③わからない

設問08. 設問07で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。

①自分の部屋 ②家庭 ③部活やサークル ④学校 ⑤友達がいる場所 ⑥学習塾 ⑦近所の家  
⑧公共施設(公民館・図書館等) ⑨SNS ⑩その他( )

設問09. あなたには、心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか。

①1人～2人 ②3人～4人 ③5人以上 ④いない

設問10. あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたらどうしますか。

①話を聞く ②別の友だちや大人などに相談する ③何もしない ④その他( )  
⑤わからない

設問11. あなたは、家族と話をしますか。

①よく話をする ②たまに話をする ③ほとんど話をしない

設問12. 設問11で「①よく話をする」、「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。

主なものを3つまでお答えください。

①学校であったこと ②テレビ番組や雑誌などのこと ③趣味や遊びのこと ④社会の出来事  
⑤親や祖父母のこと ⑥家族のこと ⑦家族の健康・介護等のこと ⑧近所の出来事  
⑨自分の悩み ⑩将来のこと(進路) ⑪友人・知人のこと ⑫SNS ⑬その他( )

設問13. 設問11で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。

①勉強が忙しくて、家族と話す時間が無い ②話したくない ③何を話していいのかわからない  
④若いこと(部活)が忙しくて話す時間が無い ⑤その他( )

設問14. あなたは、家の手伝いをしますか。

①ほぼ毎日手伝っている ②ときどき手伝っている ③言われた時だけ手伝う  
④ほとんど手伝わない

設問15. あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。

①楽しく過ごしている ②まあまあ楽しく過ごしている  
③どちらかというと楽しく過ごしていない ④楽しくない ⑤どちらともいえない

設問16. あなたは、自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」等の名称を知っていますか。

①知っている  
(※わかる範囲で回答して下さい。名称: \_\_\_\_\_自治会 \_\_\_\_\_町内会 \_\_\_\_\_組)  
②知らない

設問17. あなたは、自分の住んでいる地域の人々との交流について、どのようにお考えですか。  
 ①地域の人々との交流は大切である ②地域の人々との交流はどちらからかといえれば大切である  
 ③あまり大切だとは思わない ④まったく大切だとは思わない

設問18. あなたの地域は、「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いませんか。  
 ①強く思っている ②少し思っている ③あまり思っていない ④まったく思っていない  
 ⑤わからない

設問19. あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを3つまでお答えください。  
 ①電車やバスの中で席を譲る ②点字ブロックの上に自転車を置かない  
 ③体の不自由な人に道路を譲る ④困っている人に声をかける  
 ⑤自分から進んであいさつをする ⑥わからない ⑦特に何もしない  
 ⑧その他 ( )

設問20. あなたは、他人のために何かをしたいと思いませんか。  
 ①そう思う ②そう思わない ③どちらともいえない ④わからない

設問21. あなたは、近所の人に挨拶をしていますか。  
 ①自分から進んでしている ②相手がしたときはする ③しない ④その他 ( )

設問22. あなたは、地域が行うイベントによく参加していますか。  
 ①よく参加している ②ある程度している ③あまり参加していない  
 ④まったく参加していない

設問23. 設問22で「①よく参加している」、「②ある程度している」と答えた人に聞きます。  
 主なものを3つまでお答えください。  
 ①環境・美化活動 ②資源回収活動 ③青少年活動 (子ども会支援等) ④地域のスポーツ大会  
 ⑤地域のお祭り ⑥防災訓練 ⑦福祉イベントの手伝い (居場所) ⑧研修会・講座の手伝い  
 ⑨学習支援 ⑩その他 ( )

設問24. 設問22で「③あまり参加していない」、「④まったく参加していない」と答えた人に聞きます。  
 主なものを2つまでお答えください。  
 ①時間が無い ②興味がわかない ③身近な情報がない ④参加のきっかけがない  
 ⑤参加したいと思わない ⑥自分にはあわない ⑦一緒に参加できる仲間が少ない  
 ⑧その他 ( )

設問25. あなたが住んでいる地域は、良い地域だと思いますか。  
 ①とても良い ②良い ③あまり良くない ④よくない

設問26. 設問25で「①とても良い」、「②良い」と答えた人に聞きます。  
 どんな点が良いか、主なものを3つまでお答えください。  
 ①自然が多い ②ご近所の付き合いがよい ③犯罪が少ない ④交通事故が少ない ⑤静かな地域  
 ⑥地域の行事が多い ⑦交通の便が良い ⑧公園等がある ⑨その他 ( )

設問27. 設問25で「③あまり良くない」、「④よくない」と答えた人に聞きます。  
 どんな点が良くないか、主なものを3つまでお答えください。  
 ①自然が少ない ②近所の人と交流がない ③犯罪が多い ④交通事故が多い ⑤騒音がうるさい  
 ⑥地域の行事が少ない ⑦交通の便が悪い ⑧公園等がない ⑨その他 ( )

設問28. あなたは、地域の行事の参加への呼び掛けがあれば参加しますか。  
 ①ぜひ参加したい ②出来る範囲で参加したい ③参加したくない ④わからない

設問29. あなたは、身近な地域の情報をどこから得ていますか。主なものを3つまでお答えください。  
 ①家族 ②友だち ③ラジオ・テレビ ④インターネット ⑤新聞 ⑥市広報紙 ⑦回覧板  
 ⑧学校 ⑨公民館だより ⑩スーパー・商店等の掲示板 ⑪自治会・町内会発行広報紙 ⑫口コミ  
 ⑬チラシ ⑭その他 ( )

設問30. あなたは、身近な地域社会の日常的な生活の中で、高齢者や障がいのある人とのふれあい交流やボランティア活動をしたことがありますか(学校教育以外で)。  
 ① ある →どんな交流・ボランティア活動ですか、( )  
 ② ない

設問31. あなたは、高齢者の方や障がい者の方が、引き続き、身近な地域で生活する上で、必要と思われる支援・サービスについて、主なものを3つまでお答えください。  
 ①見守り ②声かけ (安否確認) ③移動支援 ④買い物支援 ⑤配食 ⑥子育て支援 ⑦ゴミ出し  
 ⑦調理 ⑧定期的なふれあいサロン (居場所) ⑨掃除 (草取り) ⑩災害時の手助け  
 ⑪話し相手 ⑫趣味・特技の援助 ⑬簡単な介助・介護 ⑭洗濯 ⑮ペットの世話 ⑯お墓の掃除  
 ⑰簡単な修理 ⑱その他 ( )

設問32. あなたが、今後参加してみたい地域活動をお答えください。  
 ①まちづくり (コミュニティ) に関する活動 ②地域安全・安心に関する活動  
 ③青少年健全育成活動 ④文化・芸術・スポーツに関する活動 ⑤生涯学習に関する活動  
 ⑥高齢者福祉に関する活動 ⑦障害福祉に関する活動 ⑧児童福祉に関する活動  
 ⑨地域福祉に関する活動 ⑩保健医療に関する活動 ⑪国際理解・交流に関する活動  
 ⑫環境保全・自然保護に関する活動 ⑬男女共同参画に関する活動  
 ⑭防災 (災害) 等に関する活動 ⑮特にないがきをつけかけがあれば参加したい  
 ⑯参加したくない (関心もない) ⑰その他 ( )

設問33. あなたは、地域参加活動に対するイメージは、どのようなものですか。  
 主なものを3つまでお答えください。  
 ①時間に余裕がある人が行う ②思いやりがあるもの ③おせっかいなもの ④偽善的  
 ⑤自らを成長させる ⑥楽しい ⑦自ら進んで行う ⑧責任が重い ⑨生きがいのなる  
 ⑩社会にとって必要 ⑪人手をおおぎなう ⑫仲間づくり ⑬わかららない

設問34. あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。  
 ①内容を理解している ②内容を調べたことがある ③言葉だけは知っている ④知らない

設問35. ともに助け合う地域づくりに向けた、積極的な地域参加や、これからの地域社会への期待・提言(自由意見)について、箇条書きでお答えください。

【ご協力ありがとうございました】

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

# Our Life 146号

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 Tel 054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編集委員

藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

* 内 容 *	➤ 28年目の活動始動「福祉文化の原点を探る」をテーマ「第1回公開型研修会」開催…………… P.1
	➤ 県内外の各方面から、「2022年度調査報告書」の反響紹介 ……………P.2
	➤ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」結果考察 その2……………P.3
	➤ 「第22回静岡福祉文化研究セミナー」開催案内「事務局日誌拝見」「編集後記」 ……………P.4

**静岡福祉文化を考える会 28年目の活動始動 当面「ご近所福祉検証期」として取り組む  
世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”を描く  
「静岡発 福祉文化の創造とは ー福祉文化の原点を探るー」を研修テーマに  
「第1回 公開型研修会(会員全体会)」を開催**

2023年度、本会は28年目の活動に入った。『草創期』から、『協働期』、そして、『実践融合期』、『共創社会実現期』を経て、2020年度以降、「ご近所福祉の復活」「地域を家庭化する支え合いの検証」そして、「高齢者からの提言」と、『ご近所福祉検証期』へとつないでいる。

「わかる化」「見える化」「見せる化」をもとに、地域福祉教育教材の開発として「若者発 ご近所福祉かるた」を誕生させて、更に、増刷と「かるた利用の手引き」の発行にこぎつけて、福祉文化実践活動に取り組んできた。

本年度の活動テーマ「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”を描く」を掲げて、協働による地域課題改善に向けた福祉文化実践活動がスタートした。

長引く、厳しいコロナ禍下から、少しずつ明るい見通しも見えてきた、4月22日に、静岡市清水区「寄ってっ亭」で、「静岡発 福祉文化の創造とは ー福祉文化の原点を探るー」を研修テーマに、「第1回 公開型研修会(会員全体会)」を開催した。“私にとって原点って?”をもとに、参加者が、自分史を描くように自己紹介をした。そして、「基調報告：地域活動の原点を問う」につなげた。本会の「静岡発 福祉文化の創造」27年間の活動の原点を説明した。その中から、若者のご近所観や、今大人社会が描いているご近所を共有し、「地域活動における原点」を理解することを確認した。本会が昨年度実施した、「高齢者対象調査結果」を議論に加えたり、本会が制作した「若者発 ご近所福祉かるた」誕生のプロセスを紹介しながら、和やかに意見を交わした。後半の「円卓トーク：私のご近所を点検する」では、今日、地域社会において、取り上げられている「高齢者世帯を取り巻く事例」をもとに、参加者それぞれの地域の実情を踏まえながら、問題解決のための「地域力」「ご近所力」等の支援方法について意見を出し合った。改めて、「ご近所福祉」を確認しながら、「公助」や「制度」にすべてを依存することなく、身近な地域における支え合いについて話し合った。

➤ **まとめにかえて ご近所福祉とは**

1. お互いを認め合う
2. 対等である 上下をつくらない
3. 見返りを求めない
4. 継続的である
5. 無理がない

**ご近所福祉 = おすすめ分け**



Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編集委員

藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

# Our Life 147号

* 内 容 *	➤ 改めて、2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年目の活動を掲げると…………… P.1
	➤ 2023年度 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成決定……………P.2
	➤ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」結果考察 その3……………P.3
	➤ 「事務局日誌拝見」「編集後記」…………… P.4

## 改めて、2023年度 静岡福祉文化を考える会 28年目の活動を掲げると 福祉文化の原点、「ご近所福祉」を探る

長らく、厳しいコロナ禍下、本会は、活動を休止させることなく、28年目の活動を展開している。

平成27年度と令和3年度、尊い「赤い羽根共同募金助成事業」により、「若者発 ご近所福祉かるた」200セット、「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き」200部を発行し、「わかる化」「見える化」した「住民福祉教育教材」として、県内各方面に提供し、「ご近所福祉の再構築」を積極的に働きかけてきた。

本会では、これまでの活動のプロセスから、平成8年度から平成13年度までの6年間を『草創期』、平成14年度から平成19年度までの6年間を『協働期』、平成20年度から平成26年度までの7年間を『実践融合期』、平成27年度から令和元年度までを『共創社会実現期』、そして、令和2年度から今日までを『ご近所福祉検証期』の5つの領域に区分して、現在、「ご近所福祉」をあらゆる面から検証している。

「見える化」「わかる化」を住民福祉教育で深めていくために開拓した「若者発 ご近所福祉かるた」。そして、より「ご近所福祉」を市民の生活圏域において学び合えるように「かるた」の有効な活用を狙いとして、制作した「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き」により、8年間、本会の中心的活動が展開されている。

一過性の活動展開に終わらせないように、2023年度の活動計画は、テーマを「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”を描く」を掲げ、調査研究活動を軸に、3つの活動基調と3つの活動の柱立てをもとに展開し4か月を経過している。

「委員会」は、年4回開催、「公開型研修会・研究セミナー」は3回開催。研修テーマは「静岡発 福祉文化の創造とは～福祉文化の原点を探る～」「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”を描く」「教育と福祉の融合と“福祉文化”」。

活動の中心となっている「調査研究活動」は、今年度の調査テーマを、『私にとって、“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査』とし、調査対象を、調査事業では、初めて中学生に絞り、7月から9月中に県内の関係団体・福祉施設、地域実践者等の協力のもとに、「共創社会実現研究会(調査部会)」(仮称)を協働団体:焼津福祉文化共創研究会との連携により、設置し、調査研究事業を展開する。「広報啓発」については、機関誌「OUR LIFE」年4回発行。本会ブログを立ち上げ、更に「静岡発 福祉文化の創造」の発信に努めている。



\*すでに、200セットを県内各地に配布

更に、コミュニティ組織との連携に努め、「かるた」の配布地域の開拓とともに「ご近所福祉」について、広く地域住民の意見を把握することに努める。本会は、これまで、尊い助成事業の支援をいただいている、「静岡県社会福祉協議会」「静岡県共同募金会」「静岡県コミュニティづくり推進協議会」「ふじのくに未来財団」「あしたの日本を創る協会」「さわやか福祉財団」「愛恵福祉支援財団」「市町社会福祉協議会」「焼津福祉文化共創研究会」「日本福祉文化学会」「静岡県ボランティア連絡協議会」、多くの県内地域活動実践者への情報提供に努めている。



\*拡大ご近所福祉かるたを作成し、ふれあい広場で子どもたちと



\*本会の公開型研修会で、世代を超えてご近所を議論



\*平成28年焼津市内の支え合い講座でご近所福祉をかるたで学ぶ

Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

# Our Life 148号

〒424-0841 静岡市清水区追分3-5-17  
NPO 法人泉の会内 Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884  
静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚  
編集委員  
藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

* 内 容 *	➤ 2023年度 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業経過報告② …………… P.1
	➤ 第22回静岡県福祉文化研究セミナー」開催 新潟福祉文化を考える会と意見交換……………P.2
	➤ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査結果考察 その4」……………P.3
	➤ 「事務局日誌拝見」「編集後記」…………… P.4

## ●2023年度静岡県社会福祉協議会ふれあい基金 ボランティア活動等活動推進助成事業 『私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態』検証事業 経過報告 ②

### 「共創社会実現研究会(調査部会)」設置による事業の確実な進行管理

28年目の本会の「調査研究事業」は、静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業の決定をいただき、『私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態検証事業』に7月から取り組んでいる。これまで全世代対象(10歳以上)、大人対象(20歳以上)、小学生(4年～6年生)対象、高齢者対象(65歳以上)を領域として、その年代の福祉課題を調査テーマに取り組んできた。今回初めて、中学生(1～3年生)を調査対象とし、県内の福祉施設、地域活動実践者、市町社会福祉協議会、会員等の協力を得て取り組むこととした。地域社会に各領域との協働・連携で成果を上げ、本事業を円滑に取り組むため、「共創社会実現研究会(調査部会)」を設置した。「設置要綱」は下記の通り。



#### 1. 設置目的

今日、地域コミュニティへの参画の希薄化とともに、公助ありきの意図的支援が当たり前のような社会環境になりつつある。加えて、長引く、厳しいコロナ禍下、ますます、地域コミュニティのつながりやご近所の支え合いが弱くなっている。こうした社会環境の中で、少しずつ、地域社会に明るい兆しが見えてきた今、とかく、地域活動から疎遠となりがちな中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加と世代間交流を通じて地域づくりの再構築を検証する目的で「私にとって“ご近所”とは その意識と実態調査」を実施する。この調査を実施するにあたり、地域社会の現状認識、計画に基づく円滑な調査の展開協議とともに、調査結果をもとに、地域の教育力、次世代の地域の担い手の育成の課題、若い世代の積極的な地域参加できる地域環境を醸成し、世代を超えた地域ぐるみの支え合いにより、地域共生社会づくりのあり方を大人社会に提言するための議論をする目的で設置する。

#### 2. 構成 本会会員、協働団体会員及び、本事業に関心を持つ関係者の自発的な参画により構成

#### 3. 協力 これまで、本会及び静岡福祉文化を考える会から情報提供してきた関係領域及び地域実践者

#### 4. 設置期間と研究会開催日

(1) 設置期間 本事業活動期間 令和5年7月1日より令和6年3月31日までとする

(2) 開催時期

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	7月 8日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識、課題整理
第2回	7月15日(土)18:30 北川原公会堂	調査実施計画協議(調査実施要項・調査個票)
第3回	8月19日(土)18:30 北川原公会堂	調査票配布検討、調査実施上の課題反響、調査集計作業
第4回	9月 9日(土)18:30 北川原公会堂	調査回収状況、調査集計作業、協働の課題
第5回	10月14日(土)18:30 北川原公会堂	調査集計作業及び考察作業(意識と実態と提言)
第6回	11月11日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察①
第7回	12月16日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察②
第8回	1月13日(土)18:30 北川原公会堂	調査報告書ページ仕立て作業、入稿、報告研修会計画
第9回	2月 3日(土)10:00 北川原公会堂	調査報告書完成、調査結果の検証、調査報告研修
第10回	2月24日(土)18:30 北川原公会堂	研究会総括(成果) 県社協への報告確認

すでに、これまでに4回開催。第1回では、「基本計画」を改めて確認した上で、「共創社会実現研究会設置要綱」「調査実施要項」に基づき、事業を進めていくことにした。事前に学校関係者からの指導助言をいただいた。

第2回では、「調査設問項目」を議論し、6領域・全35設問を組み立てた「調査票」を仕上げた。

第3回では、「調査票」の依頼先検討及び発送準備に取り組んだ。第4回は、調査票発送後、関係団体等への経過報告、届いた調査票とともに寄せられた貴重な意見を紹介。回収に伴う、入力作業の「フォーマット」の説明をした。第5回は、調査入力作業状況を確認予定。9月28日現在、調査票の回収は274枚。目標300枚。

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

〒424-0841 静岡市清水区追分3-5-17  
 NPO 法人泉の会内 Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884  
 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚  
 編集委員  
 藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

# Our Life 149号

\* 内 容 \*

- 2023年度 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業経過報告 ㊦ .....P.1
- 「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」調査協力者からの声(抜粋) .....P.2
- 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」結果考察 その5 .....P.3
- 「2024年度かるた活用事例集作成検討」「事務局日誌拝見」「編集後記」 ..... P.4

## ●2023年度静岡県社会福祉協議会ふれあい基金 ボランティア活動等活動推進助成事業 『私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態』検証事業 経過報告 ㊦

### 厳しい社会環境下で、尊い351名の中学生の調査票が届き、入力作業進む

28年目の本会の調査研究事業は、7月7日に「2023年度静岡県社会福祉協議会ふれあい基金 ボランティア活動等活動推進助成事業」交付決定をいただき、現在まで、『私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態検証事業』の計画に基づき順調に取り組んでいる。本誌第147号では、助成決定報告、前号(第148号)で、「共創社会実現研究会(調査部会)」を設置し協議を重ねていることを報告したが、今回はその後の動きを「報告 ㊦」として報告する。本会では、中学生対象とした調査研究事業は、初めてのことで、相当困難が生じることを予測して、「調査票」の回収目標を300枚とした。

「第5回共創社会実現研究会(調査部会)」(10月4日開催)では、①助成団体(静岡県社会福祉協議会)をはじめ、関係方面への経過報告 ②これまでの「共創社会実現研究会」開催報告 ③「調査票」回収報告及び入力作業開始「調査報告書」作成検討協議 ④「第22回静岡県福祉文化研究セミナー」(9月30日開催)で調査研究中間報告実施 ⑤「OUR LIFE148号」で「調査事業経過報告㊦」掲載報告等を確認した。

10月14日をもって、回収を終了した「調査票」の最終回収結果(351枚)の状況は、下記に通り。

#### (1)領域別(箇所数)

	会 員	実践協力者	市町社協	福祉施設	合 計
枚数	52 (8)	148 (18)	52(8)	99 (13)	351 (47)

※この3年間の回収箇所数

	会 員	実践協力者	市町社協	福祉施設	合 計
2021	4	27	12	依頼してない	43
2022	4	29	6	依頼してない	39
2023	8	18	8	13	47

☆これまで「福祉施設領域」には、調査依頼はしてこなかったが、今回は、夏休み期間中に施設体験学習に参加した中学生への調査依頼をお願いし、ご支援をいただいた。

☆全体的には、過去3年間の調査研究事業と同じ程度の回収実績となったが、「地域実践者」からの協力は、調査対象者が「中学生」であり、難しい状況にあったと見える。積極的に、地域の学校に依頼して、調査協力を呼び掛けていただいた。



※第22回セミナーでは、新潟福祉文化を考える会会員も出席され、調査報告議論

#### (2)地域別(箇所数)

	東部地域	中部地域	西部地域	合 計
枚 数	89 (12)	113 (19)	149 (16)	351 (47)

☆今回は、西部地域からの回答が多かった。

#### ●回収した調査票351名の基本属性

※各設問によっては未回答あり

性別	男性	161名	46%	家族構成	祖父母と一緒に	94名	27%
	女性	187名	54%		親子	247名	72%
学年	1年生 2年生 3年生	119名 126名 104名	34% 36% 30%	兄弟姉妹数	その他	4名	1%
					1人	28名	8%
					2人	179名	51%
					3人	99名	28%
				4人	43名	12%	

Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

〒424-0841 静岡市清水区追分3-5-17  
 NPO 法人泉の会内 Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884  
 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚  
 編集委員  
 藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

# Our Life 150号

* 内 容 *	➤ 2023年度 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業経過報告 ④-1 ……………P.1
	➤ 2023年度 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業経過報告 ④-2 ……………P.2
	➤ 2023年度 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業経過報告 ④-3 ……………P.3
	➤ 「調査報告研修会(第2回公開型研修会案内「事務局日誌拝見」「編集後記」)…………… P.4

**2024年 謹んで新春のご祝詞を申し上げます。** 29年目の福祉文化活動に入ります。



## ●2023年度静岡県社会福祉協議会ふれあい基金 ボランティア活動等活動推進助成事業

### 『私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態』検証事業 経過報告 ④

#### 中学生の大人社会への成長の中で、地域社会を確実に捉えている尊い意見が伺える

今年度の本会の「調査研究事業」は、「2023年度静岡県社会福祉協議会ふれあい基金 ボランティア活動等活動推進助成事業」により、「共創社会実現研究会（調査部会）」を中心に研究協議を重ね、順調に事業が展開されている。今回は、「報告④」として、2年前（2021年度 さわやか福祉財団 共生社会助成事業）に実施した「福祉ってなに？461名の子どもたちに聞きました調査」の設問項目のうち、16設問項目を、今回の中学生対象調査項目35設問の中に加えて、児童期の回答との比較をしながら、大人社会への提言として考察することとした。県内の351名の中学生からの回答（東部：26%、中部：32%、西部：42%）との比較をここでいくつか紹介をする。

設問6 あなたには、自分のことで困ったときは主に、誰に話したり相談したりしますか。

	2021年度（児童対象）	2023年度（中学生対象）
①友人	20%	28% ↑
②父親	15%	13% ↓
③母親	35%	29% ↓
④学校の先生	9%	6% ↓
⑤祖父母	4%	4% →
⑥親戚の人	1%	1% →
⑦兄弟姉妹	7%	6% ↓
⑧その他の人	0%	0% →
⑨誰にも相談しない	3%	6% ↑
⑩困っていない	5%	8% ↑

●児童期においては、「母親」35%、「友人」20%、「父親」20%であったが、中学生では、友人関係の交流が深まり、「母親」29%と減少し、「友人」28%で8%増、「父親」13%はさらに減。「父親」の存在は、家庭機能の中で、さらに見え隠れしている結果である。

# 静岡福祉文化を考える会 規約

## 第1章 総則

第1条 (名称) この会は、静岡福祉文化を考える会と称します。  
第2条 (事務所) この会の事務所(連絡先)は「☎424-0841 静岡市清水区追分3丁目5-17 NPO法人泉の会内」に置くこととします。

## 第2章 目的・事業・活動基調

第3条 (目的) この会は、さまざまな福祉・ボランティア活動に携わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考えその改善のために努力していくことを目的とします。

第4条 (事業) この会は、前条の目的を達成するため、つぎの事業をおこないます。

- ① 情報交換活動
  - ② 啓発・広報活動
  - ③ 人的交流
  - ④ 研究会・講演会・セミナーなどの開催
  - ⑤ その他、この会の目的を達成するために必要な事業
- 第5条 (活動基調) この会の活動は、つぎのような基調を守っていくこととします。

- ① さまざまな分野で活動する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図ります。
- ② 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざします。
- ③ 既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切にし、つねに市民生活に密着した活動をめざします。

## 第3章 会員

第6条 (会員の資格) この会の目的に賛同し協力をする個人。  
原則として国籍・年齢・職業等を問いません。

第7条 (入会) 会員になろうとすると所定の申し込み用紙によって手続きをすることとします。

第8条 (会費) 会員は、規約により会費を納入しなければなりません。  
2. 既納の会費は返済しません。

第9条 (退会) 会員は、いつでも役員会に通告し、退会することができます。  
2. 会費を1年以上滞納した人は、委員会において退会したものとしてみなすことができます。

## 第4章 機関

第10条 (役員) この会の役員は、代表1名、副代表1名、事務局長1名、事務局長次長1名、委員、監事とします。

第11条 (役員の選任) 代表、副代表、事務局長、事務局次長、委員、監事は、会員の中から互選し、会員全体の承認を受けます。

第12条 (役員の任務) 代表は、この会を代表して会務を総括します。

2. 副代表は代表を補佐し、代表に支障が生じた場合には、会の職務を代行します。

3. 委員は、事業・研究・広報・会計・事務局事務などの会務を執行します。

第13条 (役員の補充) 役員が任期の途中で退任した場合には、委員会で補充を選任することができます。

第14条 (会員全体会) 代表は、年1回は、会員の全体会を招集しなければなりません。

2. 代表は、委員会が必要と認めたととき、または、会員の3分の1以上の請求があったときは、会員全体会を招集しなければなりません。

第15条 (委員会) 代表は、年4回程度、委員会を招集しなければなりません。

第16条 (議決) 会員全体会の議事は、出席会員の過半数をもって決することとします。

## 第5章 会計

第17条 (経費) この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてます。

第18条 (会費) この会の会費は、「社会人 年間3000円」、「大学生以下年間1000円」とし、原則として1回払いとします。

第19条 (決算) この会の決算は、委員会の議決を経たあと、会員全体の承認を得てこれを決定します。

第20条 (会計年度) この会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わるものとします。

## 第6章 規約の改正

第21条 (規約改正) この規約の改正は、会員全体会において出席会員の3分の2以上の賛成をえなければなりません。

附 則 平成8年9月1日施行

平成9年4月13日一部改定

平成18年4月30日一部改定

平成31年2月5日一部改定

## 中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」 で学ぶ“ご近所福祉” コーナー

この「コーナー」は、「静岡福祉文化を考える会」が「2015年度・2021年度赤い羽根共同募金助成事業」により、若者の意見をもとに、“ご近所”のささえあいを学ぶ住民福祉教育教材として「若者発 ご近所福祉かるた」を製作しました内容を紹介します。

「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画、「読み札」は、若者が、長寿者から学んだ“ご近所”を表現しました。

それぞれの「かるた」には、「キーワード」を強調して「解説」をしています。今年度取り組みました「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査報告書」の「中学生からの15の提言」の課題解決に向けた「地域総合型学習」や「学校教育」において有効に活用していただけるように、掲載いたしました。

本会では、さらに「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き」も作成しました。大いに、参考して下さい。

●問い合わせは、下記までお願いします。

〒425-0041 焼津市石津 751-1

静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚 TEL・fax 054-624-1924



### ▶ ご近所福祉とは??

1. お互いを認め合う
2. 対等である 上下をつくらない
3. 見返りを求めない
4. 継続的である
5. 無理がない

ご近所福祉 = おすすめ

### ☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で “ご近所福祉”を学ぶ ①

「おすすめ」は、単なる物だけではありません。相手を思いやる心を添えた「おすすめ」を心掛けましょう。対等で、見返りを求めず、無理のない継続的信頼関係。



あ  
ありがたい  
優しい気持ち  
おすすめ

### ☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で “ご近所福祉”を学ぶ ②

今、世代を超えた地域づくりに「居るだけのボランティア」は欠かせません。若者も長寿者も、そろって地域に姿を見せているだけで、みんなの心が“ホッコリ”します。



い  
居るだけで  
温かいなあ  
このまちは

### ☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で “ご近所福祉”を学ぶ ③

運動会等地域の行事には、老若男女、地域住民がたくさん集まります。こうした伝統行事で「地域ぐるみの居場所づくり」を継続していきましょう。そして、大いに、声を掛けあいましょう。



う  
運動会  
ご近所みんな  
応援だ

### ☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で “ご近所福祉”を学ぶ ④

いつも通るこの場所で、ご近所さんと出会ったときは、軽い会釈を交わしましょう。「お互いの気持ち」が通じ合います。それだけで、「ご近所さんとの信頼関係」が生まれてきます。



え  
会釈して  
通り過ぎれば  
顔なじみ

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑤

昔は、地域のあちこちに世話やきさん(おせっかいやさん)がいました。ご近所の皆さん一人ひとりと地域をつなぐ「世話やきさん」の復活を、今こそ期待したいものです。



お  
おせっかいと  
思われようと  
世話をやく

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑥

災害は、いつやってくるかわかりません。日頃の生活の中で、家族みんなで防災について、話し合いを深め、「日頃の防災意識」を高め、地域の防災訓練には、積極的に参加しましょう。



か  
家族とも  
話しておこ  
避難みち

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑦

いつでも、どこでも、誰でも、ボランティア活動のチャンスがあります。日頃から、身近な地域から「ボランティア活動」のきっかけを見つける努力こそ大切です。レッツ トライ ボランティア活動！



き  
きっかけを  
見つけて広げ  
ボランティア

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑧

日頃から、ご近所みんなが、挨拶し合い、声を掛け合っていきましょう。そして、積極的に、安心・安全な地域づくりを心掛け「ご近所力で防犯(安全)強化」に努めましょう。



く  
暗い道  
みんなで見守  
光る目で

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑨

一人より二人、二人より三人と、日頃からみんなで声を掛けあい、ご近所さん同士で集まる機会をつくりましょう。そして、「健康づくりで地域の輪」をさらに広げましょう。



け  
健康を  
見守る優しさ  
支え合い

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑩

日頃のご近所同士のお付き合いは、世代や領域を超えて、気軽に語れる環境づくりに努めましょう。一人一人の歩み寄り、これまでの尊い実体験からの「子育て支援」で悩みが解消できます。



こ  
子育ては  
語れる先輩  
探すこと

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
**“ご近所福祉”を学ぶ ⑪**

地域には、いろいろと悩みを持った人や孤独な人がいます。明るく、元気で、長生きする秘訣は、身近なご近所さんと、日頃から、声を掛けあい「**仲間づくり**」を心掛けていきましょう。



**さ**  
 さみしくないよ  
 一人じゃないよ  
 仲間いる

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
**“ご近所福祉”を学ぶ ⑫**

これまでの、いろいろな災害における教訓から、「ご近所さん」は、とても頼りになります。普段から、家族でご近所さんを語り、「**隣組**」との関わりをもったお付き合いを心掛けていきましょう。



**し**  
 知ってます？  
 お隣り家族  
 お向かいさん

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
**“ご近所福祉”を学ぶ ⑬**

地域づくりは、決して、役員さん(自治会長さん、町内会長さん、組長さん等)だけにおまかせではできません。本当の地域づくりは、日頃から「**住民一人ひとりの積極的な参画**」こそ大切です。



**す**  
 住みやすい  
 まちはみんな  
 創るもの

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
**“ご近所福祉”を学ぶ ⑭**

若者の言い分、大人の言い分をしっかりと聴き合い(傾聴)、日頃から、「**世代間交流**」に心掛けましょう。そして、お互いに、歩み寄り、相互理解に努めていきましょう。



**せ**  
 世代差を  
 埋めてつなげて  
 まちづくり

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
**“ご近所福祉”を学ぶ ⑮**

さりげなく、お互いに、そばにいてくれるだけでいい「**居るだけのボランティア**」。家庭で、そして、ご近所で、日頃から「癒される人間関係づくり」を心掛けていきましょう。



**そ**  
 そばに  
 いるだけで  
 癒される

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
**“ご近所福祉”を学ぶ ⑯**

少子超高齢社会の今だからこそ、地域住民一人一人が、お互いに歩み寄り、アイデア(知恵)を出し合って、みんなで「**地域福祉**」を推進していきましょう。



**た**  
 頼んだよ  
 手を出しあって  
 明日創る

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑪

私たちの地域の伝統的な祭りや行事、食文化などは、次世代に、しっかりと伝えていかねばなりません。身近な地域の「地域文化」の発見と発展をみんなで努力していきましょう。



ち  
地域文化  
祭りや食文化  
根付いている

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑫

昔から、ずーと今日まで、最も私たちの身近な生活情報伝達手段の「回覧板」。家族一人一人が内容を理解したうえで、お隣さんには、必ず一声かけて、速やかに回しましょう。



つ  
つなげてく  
手から手へ  
回覧板

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑬

子どもは、家族や地域社会を構成する立派な一員です。「地域の子どもの地域で育てる」地域環境づくりに、地域ぐるみで、日頃から努力していきましょう。



て  
手伝いは  
子どもの心  
育ててく

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑭

何か1つは、他人に誇れる趣味・特技を誰もが持ち合わせています。自分自身を豊かにする趣味・特技を大いに地域で活かせる努力し、「地域デビュー」で、地域の輪を広げましょう。



と  
得意わざ  
活かして参加  
地域の行事

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑮

日頃から、ご近所さんとの会話を通じて、語れる・相談できる地域環境づくりに心掛けていきましょう。そして、困った時には、「三人よれば文殊の知恵」でいきましょう。



な  
悩んだら  
文殊の知恵で  
安心地域

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ⑯

穏やかで、笑顔のあふれるつながりが、良い人間関係を継続させます。日頃のご近所同士の「さりげないおつき合い」で、さらに、より良いご近所の関係づくりを心掛けましょう。



に  
にっこりと  
笑顔いっぱい  
おつき合い

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
“ご近所福祉”を学ぶ ②3

集まるサロンは、対等で、本音で語り合えて、いつも笑顔がいっぱい。「集めるから集まるサロン」こそ「真の地域ぐるみの居場所」です。地域で、いつでも交流できる場をつくりましょう。



ぬ  
ぬくもりは  
サロンの仲間と  
語り合い

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
“ご近所福祉”を学ぶ ②4

助け合いの輪は、地域の隅々まで広げなければなりません。日頃から、世代や領域を超えて、みんなで「地域の福祉力」を高める地域活動の実践をしていきましょう。



ね  
根付いてる  
地域の隅々  
助け合い

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
“ご近所福祉”を学ぶ ②5

住み慣れた地域で、思いやりの心やお互い様の気持ちを広げたいものです。日頃から、みんなで「地域ぐるみの福祉教育」を心掛けていきましょう。



の  
伸ばそうよ  
思いやりの芽  
福祉の芽

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
“ご近所福祉”を学ぶ ②6

ボランティア活動を始めるには、ちょっとした勇気が必要です。さあ、思い切って「はじめの一步」で、私発のボランティア活動が始まります。そして、住みよい地域にしていきましょう。



は  
初めの一步  
勇気を出して  
地域デビュー

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
“ご近所福祉”を学ぶ ②7

子どもの安全・安心をいかに確保していくか、今や、社会全体の問題となっています。さあ、身近な地域から、地域ぐるみで「子どもの見守り・声かけ」に取り組みましょう。



ひ  
日暮れ時  
帰る子どもに  
一声を

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で  
“ご近所福祉”を学ぶ ②8

「福祉の原点」は、「家庭・家族」からです。日頃の家庭生活から「さりげない日常会話（家庭機能）」で、「ふれあい」を大いに深めて、「家庭力」を高めてみましょう。



ふ  
ふれあいは  
親子の会話  
さりげなく

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ②9

「ハイ」という返事だけでは、相手にすべてが伝わりません。思いやりの気持ちも添えて、日頃から「感謝の心」を忘れないようにしましょう。



返事にも  
感謝の気持ち  
付け加え

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ③0

我が子だけでなく、近所の子どもたちも、常に見守りをしたいものです。日頃から、誰にでも、近所の子にも声を掛けて「地域の子どもを地域で育む」福祉力の向上を目指しましょう。



ほめ言葉  
近所の子にも  
声を掛け

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ③1

長寿の秘訣は、日頃から、ご近所さんとの交流に努めていくことが大切です。自分から進んで「コミュニケーション力」UPに心掛けていきましょう。



ま窓を開けて  
道行く人にも  
ご挨拶

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ③2

いろいろな人が暮らし合って、当たり前のご近所です。日頃からの付き合いの中から「一声かけて安心し合える地域づくり」を心掛けていきましょう。



み見守られ  
見守りついで  
暮していく

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ③3

相手からの挨拶を待つことなく、こちらから、さりげない言葉掛けは微笑ましいものです。まず、私から「声かけ」が出来るように心掛けましょう。



む向こうより  
素早く声掛け  
こちらから

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

## “ご近所福祉”を学ぶ ③4

“目は、口ほどに物を言う”と、昔から言われています。「ふれあい」は、優しい目から、心から。さあ、実践しましょう「アイコンタクト」。



め目が笑う  
優しい心が  
人づくり

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

### “ご近所福祉”を学ぶ ③5

私たちの地域社会には、様々な地域課題があります。地域みんなで「地域課題発見」に努め、一人一人が発想や視点を変えて、アイデアを出し合うことで解決につながります。「地域の現状を把握」して、ピンチをチャンスにかえましょう。



**も**  
問題点  
たくさんあるから  
チャンスあり

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

### “ご近所福祉”を学ぶ ③6

昔は、子どもの周りに「怒るおじさん」(やかましい大人)がいたものです。でも、その「怒るおじさん」(やかましい大人)も、立派な「地域の教育力」をもっていました。



**や**  
やかましい  
大人の注意で  
振り返り

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

### “ご近所福祉”を学ぶ ③7

思いやりの行為は、した人もされた人も、お互いに気持ちが良いものです。「してよし、されてよし」。  
いつでも、どこでも「小さな親切」で明るい地域をつくりましょう。



**ゆ**  
譲り合い  
してもされても  
笑み浮かぶ

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

### “ご近所福祉”を学ぶ ③8

日頃から、ご近所の悲しみや喜びを、いつでも、どこでも共有できる地域でありたいものです。  
こうした、「支え合う地域」を日頃から、みんなで心掛けましょう。



**よ**  
喜びを  
みんなで分け合う  
地域社会

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

### “ご近所福祉”を学ぶ ③9

地域の一人一人が力を合わせ、身近な地域活動を継続すると、それぞれが自慢できるご近所が実現します。  
地域参加は、私にとっての「生き甲斐づくり」にもなります。



**ら**  
ライフワーク  
自慢のまちに  
創り変え

☆中学生と「若者発 ご近所福祉かるた」で

### “ご近所福祉”を学ぶ ④0

安心・安全な街は、清潔な地域環境から生まれます。  
私たち一人ひとりが、そして、家族ぐるみで、「環境美化」を日頃から心掛けて、ルールを守り、正しいゴミ等の分別を徹底していきましょう。



**り**  
リサイクル  
ゴミ出し袋も  
気をつかい



# これからの福祉を考えるネットサイト

焼津福祉文化共創研究会

平成28年度から平成30年度まで3年間にわたり、いかに、「共助・近助の地域を再構築すること(できるか)」を目的に、住民主体の企画運営により、「港地域ささえあい講座」(徳第14・23目治会)と「港地域・港むちづくり推進会主催」を開催しました。

この講座運営に携わった実行委員有志と地域活動に熱心を持つ市民(14名)が、これまでの実績の成果をさらに地域づくりに活かそうと、2019年10月に「志願団体」として「焼津福祉文化共創研究会」(福文共)が誕生しました

blog profile

<< 2021年01月 >>

2020年度  
焼津福祉文化共創研究会主催  
「第2回公開型報告研修会」開催要項

検索

検索語句

検索

プロフィール

お問い合わせメール: minatosasae@gmail.com

リンク集

日本福祉文化学会

静岡福祉文化を考える会

参加は無料ですが三密防止を考慮しまして事前の参加予約が必要です(定員になり次第締め切ります)  
コロナウイルス感染症拡大防止対策に皆様のご協力をお願いします。

参加申し込み・お問い合わせ:  
百の木デザインサービス 焼津福祉文化共創研究会事務局  
電話 054-623-3665  
e-mail : minatosasae@gmail.com

QRコード

文化としての福祉の創造  
日本福祉文化学会  
Japanese Society for the Study of Human Welfare and Culture

福祉を拓き、文化を創る。日本福祉文化学会は  
新しい共生社会の実現を目指し、実践と研究をつないでいきます

学会の紹介  
研究誌  
福祉文化実践報告集  
福祉文化通信  
全国大会  
福祉文化実践学会賞  
現場セミナー  
ブロック活動・委員会活動  
出版物  
入会案内  
福祉文化リンク集  
メールマガジン  
お知らせ  
学会の年表  
福祉文化批評  
福祉文化書評  
重務局

〇学会パンフレット〇

【更新情報】  
2021.01.26 研究誌に福祉文化アカデミア・学会誌論文(作成)掲載しました  
2021.01.22 事務局に理事会議議案を掲載しました。  
2021.01.13 事務局に総会報告を掲載しました。  
2021.01.09 中部東海ブロックページ変更

◆日本福祉文化学会事務局◆  
〒541-0047  
大阪府大阪市中央区淡路町4-4-13  
南里ビル701  
電話・FAX 06-4963-3410  
fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp

QRコード

QRコードから簡単にジャンプできます。知識と知恵を身に付けましょう。

港地域ささえあい講座

焼津市港地域ささえあい講座を公開して  
広く多数の市民に福祉問題を考えたい  
ます。高齢者だけでなく障がい者、子供  
たちなどのこれからの社会に必要な  
であろう福祉の基本を勉強します。そ  
して協力者を多く増やし市民の福祉社  
会を実現します。  
E-mail minatosasae@gmail.com

Profile Blog

<< 2021年01月 >>

2020年度 焼津福祉文化共創研究会主催  
「第2回公開型報告研修会」開催要項

昨年11月の第一回研修会に続きまして本年度二回目の研修会です。  
どなたでも参加できます。お気軽にご参加ください。

開催日時 令和3年2月28日(日) 13:00~15:30  
開催会場 港第14目治会 「石津コミュニティ防災センター」1階展示室

プログラム  
12:30~13:00 受付  
13:00~13:20 開会、アイスブレイク  
13:20~13:50 事業経過報告  
13:50~14:40 調査報告~ご近所福祉-その意識と  
実態調査から見えたものは何か  
14:40~14:50 休憩  
14:50~15:30 “若者発”ご近所かたる”  
で私のご近所を語る  
15:30 閉会  
(予定時間が変更になる場合もあります)

参加は無料ですが三密防止を考慮しまして事前の参加予約が必要  
です(定員になり次第締め切ります)  
コロナウイルス感染症拡大防止対策に皆様のご協力をお願いします。

参加申し込み・お問い合わせ:  
百の木デザインサービス 焼津福祉文化共創研究会事務局  
電話 054-623-3665  
e-mail : minatosasae@gmail.com

QRコード

静岡福祉文化を考える会

「静岡福祉文化を考える会」は、さまざまな福祉活動に携わる人と市民が、いっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考え、その改善のために努力していくことを「福祉文化」ととらえて活動しています。活動内容は主に、公開型学習会としての委員会、公開型研修会、福祉文化研究セミナー、調査研究活動、機関誌「Our life」の発行などです。(平成8年9月にスタートし、県内全域で活動中。)

リンク集

過去のデータ(2010~2013)はこちら  
日本福祉文化学会  
焼津福祉文化共創研究会

2021年01月27日  
H29 沼津市地域福祉WS 2-3

プロフィール

静岡福祉文化を考える会  
プロフィール  
ブログ

<< 2021年01月 >>

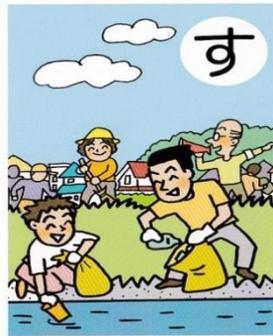
日月火水木金土

1 2  
3 4 5 6 7 8 9  
10 11 12 13 14 15 16  
17 18 19 20 21 22 23

タグ: ささえあい 静岡の福祉



**え**  
 会釈して  
 通り過ぎれば  
 顔なじみ



**す**  
 住みやすい  
 まちはみんな  
 創るもの



**せ**  
 世代差を  
 埋めてつなげて  
 まちづくり



**は**  
 初めの一步  
 勇気を出して  
 地域デビュー



**ゆ**  
 譲り合い  
 してもされても  
 笑み浮かぶ



**わ**  
 若者が  
 未来の地域を  
 創っていく

「若者発 ご近所福祉かるた」 企画・制作 静岡福祉文化を考える会 協力 焼津福祉文化共創研究会

2023年度 静岡県社会福祉協議会 ふれあい基金助成事業  
 静岡福祉文化を考える会 調査研究事業

私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査報告書

- 発行：静岡福祉文化を考える会  
 〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17  
 特定非営利活動法人泉の会 静岡福祉文化を考える会事務局  
 TEL: 054-367-2878 FAX: 054-367-2884
- 発行日：2024年2月10日
- 印刷所：株式会社 セイコー社  
 〒425-0091 焼津市八楠三丁目 5-17  
 TEL: 054-626-5960 FAX: 054-626-5970